第四百五十八號目次

◎社　說
第二維新の氣概

◎女　學
女學生の洋行
地方基督教主義女學校の危機
米國留學の一女生が旧會日記(一)　曲　洲　生

◎教　育
澎湖島民子弟の智識
(臺北府國語學校第二附屬學校の調査)
教育統計◎名士の教育談◎學校醫の設置◎新文部大臣◎西園寺文相の談

◎評　論
日本基督教界の將來

◎隨　感
臺灣土人紳士の品行◎馬關の明暗◎故郷のそら
◎雲雀子

◎雜　錄
裸体畫を論す
レディ、ゴダイヴァ　鷗　村
譚海(秘書官の時計◎公主の金剛石◎王頭と賊頭との價位◎チルソンと一水夫◎王が初めての金錢)

◎時　文
菊と桐◎忍ひぎぬ◎新知郊

◎片々◎時報

社　告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や簡易實際を事にし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。
◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらば其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前　金	廣告料	送　金
壹册價　金拾錢 / 半年前金　金一圓拾錢 / 一年前金　金貳圓 (内國無郵稅) / 代金は凡て前金の事◎前金切れの節は封皮の検印に御注意の上早速御送金有るべし◎後金は定價通の事	一行一回(廿七字詰)前金十錢 / 同　三回以上　一割引 / 同　六回以上　二割引	爲替は東京本郷駒込郵便支局に宛て小爲替にすべし◎郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割増を添ふべし

明治廿七年二月十九日内務省許可
明治三十一年二月一日印刷
明治三十一年二月二日發行

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚六百六十番地
發行兼編輯者　藤本善治
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地
印刷者　島保藏
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
(電話本局十九番)

第四百五十七號目次

◎口　繪
伊太利國ゼノア府墓地の景

◎社　說
去年今日◎年頭墳墓を觀る
逆境を轉活せよ

◎家　庭
一家の春　ちやうてい
主婦年頭の覺悟　かもめ
家政日記
子供の育て方に就ての注意　古在豊子
常節の臺所

◎講　義
正月のはやしもの
(萬歳◎鳥追◎春駒◎獅子舞◎大黒舞◎寶舟◎懸想文)　きよくほ

◎史　談
源平二氏(一)　おうそむ

◎文　藝
實朝の和歌(金槐和歌集を讀む)

◎隨　感
南遊行(二)
(宛然同様の内地◎風光明媚の高砂島◎支那人の勉勵◎牛車の悲しき音◎榕樹傘覆の下◎臺灣女學の曙光◎淺ましきは人の相撃つなり◎土人の教育◎兩兒の無邪氣)

◎雜　錄
遊戲隨筆
鬼夫婦
海舟先生詠草　山月子

◎時　文
作文實與◎實驗上の宗教◎加茂眞淵翁全集上◎皇朝婦女鑑◎新小說第十三◎鈎の風◎川の出島◎風船錄◎もしほ草◎新小說第三年一◎御年玉

◎片々◎時報

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大日本女學會

會員募集廣告

總裁小松宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

●本會賛成員は有栖川宮大妃殿下華頂宮妃殿下を始め奉り貴婦人方八十八名

趣旨 本會の趣旨は女子教育の普及發達を圖らむかため女學の講義錄を發行し入學すへき女學校の設けなき土地に住める者又は父母のもとを離れ難き事情ある者をして居ながらに通信教授を受けしむるに在り其講義は極めて平易懇到を旨とし實踐の用に應し輕佻の風を避け以て賢良貞淑の品性を涵養せむことを期す●本會は明治廿八年の創立にして三千の會員已に第一回の講修を終りたれは今や新に學科を增設し紙面を刷新し更に第二回講修の期を開き新に會員を募集す志ある淑女達とく入會あれかし何時入會あるも第一卷より送本差支なし●本會講義錄は女學講義と稱し長くも皇后陛下の叡覽を給ひ特に大御歌下賜の光榮を蒙うす一卷の紙數菊判二百頁以上の優美なる大冊子にして毎月廿五日發行す總て講義の質問に答へ歌文習字の添削批評をも爲す●會費一箇月參拾錢束修參十錢●會則希望者は郵券貳錢を添て申込あれ

學科及ひ講師 ●修身(女子修身談)細川華族女學校長が從來同校に於て演說せられたる者に係る(禮法)佐方女子高等師範學校教諭●國語(國文)關根學習院教授(作歌)大口御歌所錄事(作文文法)今泉城北中學校長●漢文、土屋華族女學校教授●歷史(日本歷史萬國歷史)大森文學士●地理(日本地理萬國地理)喜田文學士(地文)脇水理學士●理科(物理化學)近藤工學士(博物)石川理學博士(生理衛生)未定●家事(家庭教育)三輪田高等女學校講師(家事經濟)後閑女子高等師範學校教諭(家事衛生)三宅醫學博士(小兒衛生)三島醫學士●割烹、御園華族女學校教員●小兒心理學、下田文學士●裁縫 渡邊東京裁縫學校長●習字、坂華族女學校教授●音樂、未定●手藝(活花點茶)田邊東京女學館講師

附錄 ●史談下田華族女學校學監●小說、逍遙學海紅葉三大家●お伽譚、連山人●詞藻●質問應答雜報雜錄

第二卷既に發行せり

東京市麴町區土手三番町二十八番地 **大日本女學會**

故鈴木弘恭大人講述

第六版

百人一首講義

附錄小倉のてびき
定價金廿八錢
郵稅四錢

本書の講義の甚だ叮嚀親切なる、又其釘裝の頗る清楚なるは世上既に公評ある處にして、版を重ぬること亦六回に及べり。小倉山莊の障子に、百人一首を撰書して、幽寂を味はへりし定家黃門の詩趣を知らんとせば、此講義に就くに若くはなけれん。

櫻井成明譯

希臘孝子 **腓立比物語**

正價金二十八錢 郵稅金六錢

若松しづ子英文集

嚴本嘉志子

正價金六十錢 郵稅金六錢

布川靜淵、小此木秀野合著

俳諧史傳

正價金二十七錢 郵稅金四錢

横山雅男著

婚姻論

正價金十二錢 郵稅金四錢

東京巢鴨村

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子のとも

毎月二回◉優美有益多趣◉女子教育家庭教育唯一の機關
女子必修の事項を網羅す
一月三日第拾四號發刊 誌面大改良改正
定價 一冊拾錢◉六冊五拾七錢◉十二冊壹圓拾錢◉遞送料無

山階宮御息所殿下御歌 藤原公任卿眞蹟口繪寫眞版三枚
陵本居豊穎三輪義方下田歌子鶴久子中島歌子鈴木光愛諸大家の論說講義歌文
記事 高嶺秀夫伊澤修二三輪田眞佐子佐方鎭子關根正直大口鯛二坪井正五郎小杉榲邨下村豊元良勇次郎小中村義象後閑菊野子三
先生附錄講義初號以下總目錄を添ふ

高等師範學校教授野口保興先生選集
地理教授用標本
織物之部骨牌製一組百種百枚◉箱入說明書附大形金八圓◉小形金五圓◉地理教授必須の具

女子の友主筆石川正作著
歷史兒談
◉第一編大久保彦左衛門既刊第二編塚原卜傳近刊◉小供衆の好伴侶◉學校の好賞品◉家庭の好讀本◉定價一冊五錢◉郵稅貳錢

同上著
高等小學作文教科書
生徒用教師用として共に便利なる新方法を加ふ◉定價卷一金拾四錢以下逐卷壹錢增◉郵稅一冊貳錢

日本畫通信講習會

本社内に設く至急入會あれ◉講師◉大橋東京師範教諭◉木元東京高等女學講師◉白濱高等師範教授

會期一年◉毎月二回講習錄發刊會員製作品訂正◉第四號既刊欠本無し入會金貳拾錢◉會費參拾錢◉三ヶ月八拾六錢◉六ヶ月壹圓七十錢◉一ヶ年參圓參拾五錢◉十人以上一纏申込一割減詳細規則郵券貳錢にて送る

本郷元町二丁目 東洋社

日本の家庭

第三卷第七號
十月十五日發行

口繪 寫眞版一葉
社說 眞正の幸福
訪問 三輪田眞佐子女史
論說 明治の女子に望む(小西重直)
小說 雨後の月::耕月
教育 處世教草(五)鶴峰翁◉教育勅語童論(二)::星川清成◉面白誌(續)::蕣天◉保育雜談::松の生
家事 冷水浴の效顯::赤兒に乳を呑まする時刻::一記者◉酒を客にすゝむるにつきて::心適生◉醫師の診察を受くる心よげなるもの::雲水
史傳 督姬::經營生
雜錄 考ふべき算術問題◉雜報◉和歌◉俳句等有益にして趣味ある記事を以て紙面を充たす、

新年附錄
犬の子(完) 後藤宙外
おもかげ(完) 泉鏡花
家内安全(完) 上田落葉

毎月一回(十五日)發行◉一冊價金七錢◉半ヶ年分(六冊)前金三拾八錢◉一ヶ年分(十二冊)前金七拾錢◉總て郵稅なし◉爲替振込牛込局

發行所 東京牛込區新小川町二丁目四番地 日本の家庭社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治三十一年一月二十五日發兌

第四百五拾八號

社説

第一　維新の氣慨

古より爲政の秘訣を言ふもの數ば言はく、民心をして倦まざらしむと。其意、他の語を以て之を言はば、人心をして萎靡せしめざるにあり。人心一と度び倦めば、百事沮廢し、あらゆる病弊之より發す。事業振興せず、景氣引き立たず、融通遏塞し、四民一齊に困しむ。これ其の必然の徴候なり。斯の如くして、人心彌よ萎靡すれば、國歩既に末路に瀕す。規律土の如く崩れ、威嚴瓦の如く碎け、惣ての器關其の効力を失して、元氣生命到る處に消散す。むかしは、理想に熱せし狂熱も、知らざる間に凡化し、復たび確信奔命の餘勇を振ふとあらず。人皆な常識に隷屬して、處世安心の策に汲々たらざるなく、而も能く其の地に滿足するものは殆んど稀なるべし。これ豈に爲政宜しきを得ず、民心倦惰不振に陷りたる結果の悲しき狀況にはあらずや。

夫れ、民心は素と倦み易きを常とす。但だ機先を制して早く相應の刺激を置き、巧みに歩々の前程に相應の希望を掛くるの故に、人氣則はち萎靡せざるを得るなり。思想界に先覺あれば、人心此を以て倦まず。事業界に見込あれば、人心此を以て倦まず。かの爲政の大人、妙に機先を制するの大策を施すあらば、邦家の民心は決して倦まざる也。之を況んや、事効毎々要緊に外れ、雄心落々次第に剝げ、尙且つ幾度か失望せしめて、既に得たらんと思へりしものをも奪はれ去らしむ。人心如何んぞ萎靡せざらんや。

試みに人の一生を見よ、七顚八起あり。國の史乘に於けるも亦た又た之に外ならず。近く之を德川氏二百五十年の治世に考ふるも、其の殆んど倒れんとして亦た興起せしもの幾回ぞや。而して、其の倒れんとするや則はち民心倦怠の極なり。

其の興起せしや、人氣振作の餘響なり。所謂ゆる第一維新の機は只た此の一轉の尤とも大なるものにして、更始革新の趣むきを斬新にしたるもの也耳。

夫れ、第一維新は、王政の復古を意味す。幕府の內閣を倒して、天子の御親政に代ふ。正に是れ革命にして變化の機尋常の移動にあらざるが如けれど、抑そも日本皇國は古へよりの帝政國たり。豈に德川氏の世に於ては、帝の主權あらせ玉はざりしと言はんや。德川氏は亦是れ一種の長命責任內閣のみ。維新の際み、一と度び帝權を發揮し、皇國の國躰を顯昭し、日本本來の特色を照明したると同もに亦た復た別種の責任內閣に移らんとはせり。何んぞ必らずしも、第一維新をもて千古無類の特例とは爲さんや。

此の故に、第一維新に先だつの時勢は、第一維新の末路に似たるべし。安くんぞ、維新薩長氏の改革に過分の神聖を冠らせて、此の命の永遠不窮なるとを保證するを得んや。第一維新の美なる者を擅まゝにせる明治政府も、何んぞ不死の長壽を專有せんとを得んや。試みに今の時勢をもて、德川氏の末路に比較せよ。

德川氏の末路、改良なきにあらず。其の陸海軍は大いに擴張せられたり。其の擴張の主動力は、無益なる長州征伐の結果より來れり。人才登庸の名隆んに起りて、各藩の俊才大いに用ひられたり。而も、其の老中より監察に至る迄で、幾度か交迭せり。外交上の危懼近く迫りて、經綸長大ならず。四面の反噬起りて、年度の豫算つねに遣繰り算用を免れず。其の根柢に於て、國庫の財用甚しく窮乏し、たとひ薩長氏の一兵を弄するなきも、殆んど日ならずして自滅するの外あらざりき。

此時に當りて、政閣の威嚴なきと、人才の價格の常なきと、民心の恟々たると、一世の不景氣なると、人氣の惣べて沮廢累隳せしとを憶ひ起して、正に之を明治の今日に比較せよ。何んぞ其の酷似するや。

夫れ、王政維新の大機既に決了せし后すら、各地尙は佐幕勤王の黨爭を絕たず。明治三四年に至る比ほひ迄は、新政府果して永續すべきやを疑ふもの多かりき。抑そも時勢の覺りがたきと斯の如し。一葉の零落によりて天下の推移を知るは、俊傑の意識に屬す。滔々たる凡俗豈に能く足下の飛鳥をすら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

辨ぜへんや。末路を踏んで其の薄きを覺えず。第二維新の氣既に地中に迸發するに臨んで尙ほ悟らざるは素より其の分なり。左れど、眼識を練るものにして、安くんぞ斯の如くして則はち可ならんや。

蓋し、末路と初歩とは、道相接す。殷の倒るゝの日は周の起るの日なり。人心萎靡の兆は、人心復興の機。第一維新の末造を歎じて、第二維新の曙光を欣喜せざるは何事ぞや。夫れ亡國とは他なし、末路に際して、新路の開けざるとこれ耳。末路素より悲しむ可らず、新路の開けざるを憂ふ、人心の一轉は古より免る可きにあらず、今にして一轉を惜む勿れ、但だ之を轉ずるの氣慨の消沈を歎ぜよ。

嗚呼、國歩末造の時や、もし一家一身の事を慮かるに屈托せば、其の日も亦た足らず。前途暗澹として殆んど絶望に價ひするの外なし。翻つて一身一家を犧牲にし、奮つて邦家の大機に盡瘁するを矢はば、勇心勃發し、經營の日も亦た足らざるを覺へん。彼と此と心機一應の差のみ、而して、亡國と隆國とに影響するは至大の懸隔なり。吾を献げて皇國の命運に寄せなんとするもの、安くんぞ孜々として只管らに自個の葬むりの穴をのみ掘らんや。

語ばを寄す、四方無名の健兒烈女よ。今の時を以て尋常一樣の時代と爲す勿れ。外交に於ては、四艘三艘の黑船の只だ往來せし古とは異なる、對岸の地既に異人に强借せられつゝあり。第一維新に先だちて流されし志士の汗血夙に乾き、其の俊傑の雄威感化次第に薄らぎ、只だ當年の惰性によつて暫らく維持せし元氣今や殆んど斷え、時は正に第二維新草創の初期とはなれり。志士、當に創業の意氣を以て奮勵すべし。何んぞ尋常の轍を蹈みて、萎靡の域ひに同樣の投身を爲すべきぞや。學ぶものは活學せよ。働らくものは活働せよ。思ふものは熱思せよ。案ずるものは堅く案ぜよ。而して、心志を壯大にし、希望を雄烈にし、腹肚に十分の元氣を充滿して、此の一大難關の透破に覺悟し、皇帝の御國を船として、四千三百万民一齊に和し、彼の暴濤暴波を横ぎつて彼岸に達せん。語ばを寄す、吾黨の士女、幸ひに此の機に後れて、邦家の爲に無益の奴隷となると勿れ、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學

女學生の洋行

夙に洋行留學せし女學生多し。既に歸朝せられしも亦尠からず。而して、歸朝後適當の職掌なく、中には無爲消閑せらるるものも亦之れなきにあらず。此に於てか、議者既に早く評論して、或ひは女學生洋行の價値如何んと問ふものあり。斯の如きは、議者本分の恥辱を表明するに過ぎずと雖ども、亦或ひは世上謬見の一部を代言するものとなすべし。試みに一辨を加へずんばある可らず。

『女生に高等敎育を施すの可否』を論ずるとせば自から別問題に屬す。然れども、洋行留學して高等の敎育を受けたる女生が、歸朝后職掌なきの故に、則ち其の學問を無用とする論の如きは、是れ首尾を顚倒したるものに非ずや。凡そ才學ある者、誰か用なからん。文明の國家は惣ての才學を需要して亦足ることを知らざるもの也。然るに今ま西洋先進國の女學に學びて其の才を開發したらん女秀才が、歸朝后直ちに其の用を施す能はざるものは、即ち是れ我國女學に關する事物の尙ほ幼稚なるが故にあらずや。此の如き時世は彌よ切に女秀才を要す。彼女は陽春未だ來らざるに厚氷を破らんとするものなり。其の冷遇は素より身の不運にして却つて學の用ある所、必らずや幾多の潜熱を施して以て他日の春光駘蕩を促がさゞるを得ず。彼女の外見何等の職掌なきが如きは、其の勢ひを潜むれば也。斯の如くして、陰々地に其の感化を布く所、遂に後の女生をして容易に其才を展べ、其用を公にするとを得せしむるに至る所以にあらずや。試みに、儒學未だ大いに用を爲さゞりし以前の儒生を見よ。其の學の直ちに用ふべき所なきによりて、儒道を斥けたる乎。凡そ、人生、卓識あるものは容易に用ひられず、學深きものは近く細務を爲さず。乃ち、爲さず用ひられずと雖ども誰か其の無用を言はんや。無用を言ふものは只だ俗論見のみ。果して、俗論の士か。亦た洋行女學生の職掌なきを奇しまんとするなり。

夫れ、用ゆると用ゐざるとは、時の需つあるに關す。用ゐら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れざるが故に學を廢するは、眞に學ぶものにあらざるべし。方今の學風頻りに功利に流れ、天稟を磨くを欲せずして、只だ營利を主とす、これ學を商賣にして、財本を卸すに異ならず。豈に是れ學ぶものの本色ならんや。單に洋行女學生の職掌を危むものの如きは、只だ之に類する耳。

崑岡の玉を出すは、珍重すべし、岩を割りて勞を辭せず人才を養ひて、其の寶を引出すは、邦家の珍貴ならずや。亦た何ぞ、其の市上の價格を問はん。今や我國不幸にして未だ女子大學あらず、高等の女學を授くるに於て頗る憾みありとす。何の好運の兒ぞ、其の資と、其の健康と、其の才力との能く外國先進の高等女學を學ぶに堪へて、而して恙なく歸朝せんとは。吾人は其の才の用ゐ盡すべく、其の學の施し了るべき所なきを知るによりて彌よ高等の女生を需要す。これ女學界を振張して、速かに先進國と對等せしむべきの原動力たりと思へば也。

但だ痛ましきは、此等先輩の女秀才、其の地を得ずして、其苦を嘗むることの多からんことこれ也。四面の壓力は、其の翼を抑へんとし、八風の抵抗は、其の飛ぶを妨たげんとす。彼女は蓋し重々として迫害の彌よ加はるをのみ感ずらん。然りと雖ども是れ單に女性の事のみとなす莫れ。あらゆる新らしき事の惣べての初歩は皆な斯の如し。理學者之を惰性を破ると言ふ。創業者之を改革の痛苦と言ふ。古人之を先憂と言ふ。凡そ、男子、凡そ女子、凡そ士農工商、その越格の新事物を施すに於て皆な遭遇せざるはなし。亦何んぞ獨り女性の事として痛まんや。寧ろ、先進の榮として感謝すべき也。

地方基督教主義女學校の危機

曲浦生

吾人、既に屢ば、高等女學校全盛の時代來ると聲言したるものは、今に至りては、恐らくは一人の之に否を唱ふるものなからん。そは論より證據、事實の眼前に横たはれるものあればなり。客臘、前文相が男女別學を訓令せしと共に、各府縣に一高等女學校を設置せんことを奬勵したるは、或は去秋、帝國教育會總會決議の上申に基づきたるならん、而て前文相既に位を去るとも、新相も亦た曩時切りに女子教育論を唱へ

たるの人、必ずや又彼奬勵に加ふるに一層の奬勵を以てすべし。夫れ今の高等女學校の全盛は、時世氣運の約束する處なれば、文相椅子の交迭、今日の如くに頻繁なりとも、其任に當らんものは、誰ありてか、この氣勢の運行を妨ぐるとを得んや。されば。この兩三年が程は、見よ、此處にも彼處にもといはんばかりに、高等女學校は新設せられて、而も亦一々生徒の員數に充ち滿たさるべし。

如斯くにして、高等女學校、多々益々新設せらるゝに至らば其必然の結果として、多くの地方基督敎主義女學校の衰運を見んと、昭々乎として、夫れ甚だ瞭かなり。全國の基督敎主義女學校は其數六十と稱す。其中三府に在るものを除くも、なほ四十內外のものは、全國各地方に散在せり。此種女學校の都會に於けるものと、其地方に在るものとは、自から多少の境遇を異にするものありて、例令、既に高等女學校の爲めに、多分の影響を蒙りたりと雖も、なほ地方基督敎女學校の、今後手痛く感ずべき影響よりも甚だ輕とす。蓋し今の時は、彼等各地方に在りて、多數の誠實熱心なる女子敎育家の汗血を涸し、財嚢を空しうせしめつゝある、有望奇特の女學校な

るものゝ、痛ましいかな、時世の逆ふ處は如何ともすべからずして、一々衰退の危機に瀕しつゝあるなり。諸君熱實の女子敎育家、既に此危機の來りつゝあるを察知せりや。且や又如何して此機の困難危殆を無事に過濟して、我時の到るを待たんとの道あるを得たりや。

岡山縣の參事官某が、其縣會に向つて、高等女學校新設の理由を說明して、もしこれ無くんば內地雜居の日、女生相率ゐて、耶蘇敎女學校に入學するの虞ありと。痴見甚だ笑ふべしと雖も、而も亦これ滔々たる俗流の見識なるを如何せん。所謂、國家主義なる迷想の蠱惑に驅られつゝ、多くの仁人義者の熱血を値ひせる基督敎主義女學校を敵手と見做して、高等女學校の設立をなすもの極めて尠からざらん。

時人いまだ基督敎の價値を知らずして、而も亦官學たゞ尊しとなすの今日、高等女學校の各地方に建設せらるゝあらんか、此地、彼地、既に女學の爲に十年の辛酸を具にせるの基督敎主義女學校ありと雖も、忽ちにして新設の官學によりて壓倒せられんや必せり。吾人は彼等の爲めに甚だ之を惜まざるを得ず。同じく基督敎主義女學校なるものゝ中にも其の宜

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

教師輸入の外資によりて維持せらるゝものならんには、この打撃もよく甘んじて之に耐ふべく、或は其金力のあるによりて、堂々官學に對峙することを得べきものとなるべし。されどこの二三有志の獻身犠牲の餘に成れるものに至りては、もとより金力あるに非ず、隨て器械も教師も、はた學課も整頓せざるに於て、若し、其地に高等女學校の官設せらるゝものあらんか、其精神の美醜はしばらく置き、形躰頗る備具するものありて、而も、高等小學校と氣脈相通ずるに由りて、此を了へて、彼に入るは自然の順序なるを以て、女生滔々として之に入るべきは當然なり。此時に當りては、頗る特志の女生に非ずんば、他の基督教主義女學校に入學することあらざらん。素より學藝攷究の點よりいへば、遙に完備せる官學を措きて他に入るは、愚策なるに似たり。時人の信認の悉く官學に歸するは勢の然らしむる處なりとす。

曩きに保守的反動の逆勢に驅れて、一時女子教育の衰運を招きしや、曾て盛んなりし官學、即ち師範學校女子部の如きが續々廢校せられしにも拘らず、各地方多數の基督教主義女學校が、多くの苦酸逆境に處しつゝ、能く之に堪へて、女學の形神二つながら保持しつゝ、今日に至りしの功勞は、頗る讃稱するに堪へたり。されば今時再び、女子教育振作の輿論となりしや、彼等女學校も、稍や生徒數を增加し來りて、恰も曩時の苦辛の勞に酬ゆるものゝ如しとして、漸く氣を弛べ、心を安ぜんとするの觀ありと雖も、熟ら惟みれば、今後數年は未だ決して、彼等女學校の順境の好時に非ず。今の高等女學校時代は、なほ彼等が大逆境の日にして、安んぞ其心を緩かにし、氣を伸ぶべけんや。彼等の女學に對するや、如何に偉大なる抱負と、秀絶せる精神とありとするも、此日此世は未だ其價格を認むること能はざるを如何せん。而も今後の逆境は、之を前時に比すれば、社會が女學隆盛を公認して、對するに强力なる敵手を控へたるものなるが故に、彼等の非運なる、猶且つ其頭を昴ぐること能はず、更に苦辛の甚しきものあるべきなり。さらば、曩には能く彼逆境に耐へたるものも、今後またよく之に耐へ得べきや否や殆ど知るべからず。或は恐る、無資無力なる幾多獨立の基督教主義女學校の如きは、遂に劇烈なる苦酸に害せられて、十年の苦節、一時に瓦解に歸すること無やと。然と雖も、よくこの逆境に忍ぶこと數年、其間

前に倍するの氣慨と守節とを以て、校の完備を計り、他山の石以て其特長を砥礪するあらんには、必ずや、彼等が日に際會することあるべし。この希望を前程遙に仰ぎ見て、今の時に處するの策、基督主義女子敎育家諸氏既に之を得たりや。』

吾黨屢々論ずるが如くに、高等女學校全盛時なるものは、數年にして、種々の欠點を江湖に暴露して、其衰退を招かんや必せり。然れども女子敎育は衰ふるの日あらじ。假令一時の衰微を見んとても、必ずや忽ちにして勃興せん。其時や即ち、社會が、基督敎主義女學校の如くに、精神に於て秀絶せるものに、望を置くの日ならん。彼等はこの日に到らんまで、能く耐へ能く磨くの道に入れりや。彼等の爲めに謀るに、今の逆境に處するの道要するに左の三あり。

一。大に其門戶を開き、地方の有志家の力を假て、資力を得、其特色を以て之を運用して、一の高等女學校となす事。

二。若し高等女學校となす能はざるも、多くの資力を得て、敎育者の銳意、其規模を擴張して、官學の企及すべからざる特長を砥礪する事。

三。資力既に多からざるに於ては、其規模を縮小して、熱意の敎育者が、身を挺して、其特長を以て、少數有爲の女生を薫陶する事。

以上の三要項中、其孰れを取るも可、或はまた他に良策のあるべし。たゞ要するに、この逆境を過渡せんとするに當りては、策の執るべきものなくして可ならんや。吾人の資力、全力といふは、或は精神的なる基督敎主義女子敎育家諸氏の唾棄する所ならん。然りと雖も、凡そ百般の事業は、資力なくんば、之を行ふこと能はず。精神氣慨ありて後、資力を運用するの妙腕ありて、はじめて事業擧るべし。多くの獨立女學校が常に資力の乏しきを訴へて、創業の企望十一を全うする能はざることは、諸氏の實歷する處に非ずや。然れども亦資力ありて、精神に乏しきは、則ち、高等女學校が、將來の衰運を約束する所以なり。諸氏既に、充盈せる精神あり、氣慨あり、之に加ふるに、安んぞ其門戶を開いて、資力を收集することをせざるや。女子敎育は天下の事業なり、何ぞ一宗派一敎會の範圍を頑守すべけんや。もし資力得べからずとせば、則ち、大規模の空望を棄てゝ、退いて、竊に二三子を養ふの計に出でよ。これまた一大事業に任ずる所以なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

高等女學校の組織に變ずるとは、これ基督敎主義女學校の特色を棄つる所以なりとして、非難するものも多かるべし。されど吾人が之をいふ所以のものは、今の時、後の日、共に順境に處するの爲めの變通の道をいふなり。而も其形を變じたるが爲めに、多年守持の特操を失ふが如きものあらば、其女學校たるや、蓋し吾人の多望を措くに堪へざるものなり。官學は我國に於て其形躰の尤も發達せる敎育組織なり、この形を容れ、その精神を以て之を運用す、豈妙ならずとせんや。

以上吾人の說く所は、即ち地方の基督敎主義女學校の爲めにいへるものなり。大都は流石に廣ければ、種々の形躰を備へたるものを容るゝに足りて、此種女學校の如きも高等女學校あるが爲めに、多少の影響を蒙るとは、事實なりと雖も、なほ其特殊の形躰によりて、其校運を維ぐことを得べし。されど地方に至りては、其區域の狹隘なるは、自ら事情を異にして、一强者起らば、弱者の乍ちにして壓倒せらるゝとは、獨り敎育組織のみに非ずして、百般の事業、比々皆然らざるはなし。危いかな、高等女學校なる一强敵手起らん時、微力なる基督敎主義女學校殊に其無資力なるものゝ是と對峙せんとや。今猶、敵手起らざるに安すんじて、前年よりも多數の生徒を得て、多少得々たるものあらば、早晚起るべき官學の爲めに、蹉跌を見るの危機を覺らざるものなり。もしこの不覺あらば吾人は、彼等が熱意誠實を以て舐め來たりたる多年の苦節の爲めに、之を痛まざるを得ず。吾人は敎育の上に、敵手てふ、忌まはしき語を用ふるものは、蓋し、起るべき官學は、現存の異主義者あらんには、必ずや、これが敵手となりて、之を壓服せんと覺悟せんとするものなるを以ての故に、彼等の意を假るに過ぎず。嗚呼この敵手、こは遠からずして、四十有餘の地方基督敎主義女學校に對して、一々起り來らん。彼等は即ち危機に瀕せり。この官學女學校の盛大を誇るべき數年は、即ち彼等が苦酸の逆境なり。これを過濟するの道ありや。彼等は希望のカナンに達せん日まで、如何にして紅海はたまたアラビヤの野を過ぎらんとしつゝありや。

菊地文部次官人に語りて曰く、文部の女子敎育を奬勵する所以のものは内地雜居準備の一なる爲め。蓋し對外人對異敎の主旨に出づるものなるべし。爰に於てか知る富山縣參事官の說明其基く處あるを。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

米國留學の一女生が 田舍日記 (一)

米國某の女子大學に留學せる一女生、昨夏、學窓を後にして、田舍に遊ぶ。其時、心のまゝにかいつけたる日記てふものを、本國のさる方に寄せたるに、樣々面白き節の多かれば、左に掲げつ。

* * * * *

六月十一日

「好天氣、おはやう御座ります」といつて入り來りしは、村の税吏、鳥渡ばなしを濟まして後、「田地の坪數を問ひに參りや゛した」、夫「二十三エーカー」(當家の主人は過半田地を他に貸して、唯氣樂に少許を、家族の爲めに耕作するのみ。)妻、夫をしぶく見て、さて税吏に對して、「何二十三エーカー？そら算用ちがひ、去かも耕作のうすい田地、つまり十九エーカー程です。」税吏笑つて、「ミスエス百姓さん、私はミストル百姓さんの方を信じます。どこの國にも、農家の夫は、のほんとして、氣樂正直に、婦は立まはつて、きちようめん過るものなり」と。

ウラビーの學校は、昨日を以て終りぬ、彼の夏休暇は始まりぬ。彼は朝早く起き、豆を植ゑ、もろこしを植ゑぬ。彼は好き童兒なり。

六月十二日

百姓の家には風呂場なし。

六月十三日(日曜)

(一)一個の理想を有し、志氣勃然己の赤心を縷々歌ひ出して、やむとなき文學者は、何ぞ、淺學僻見かたくろしき説教家に優ると夫れ數等なるや。説教家は、聽衆を主として、有罪説に拘泥す、彼の説く處、主として蒸あつき夏の日中に吹く頭痛風の如し。文學者は、人に阿らず、説にしばられず。而も己の信ずる所を超然として、彼が限りなき心の泉より、みなぎらす。説教家愛を説いて曰く、汝罪あり、汝の罪深し、唯キリストは愛の化身なり、汝、彼に來れ、彼、汝の罪を宥さんと。詩人愛を解して曰く、愛は我が理想の反響なり。理想よ我は仰いで、爾を見る、我、爾を何にかたとへん、爾は雲を破つて、洩れ出づる明月の如し。爾は

初戀の仙女が、露けき夜に、彈きならす琴の音の如し。爾の顏はかゞやき、爾の聲は涼し、而して爾の動悸は、あざやかに、貞と眞と生命とを、我鼓動に打かへす。われ爾の前に立つ、われは驚いて息をやめ、われは覺えず跪いて殆ど爾を崇拜す。見よ〳〵我手我足は、爾に對する聖き情念の亂波を以て慄ふなり。我は爾を見たり、爾を見たり、爾は到底我愛の明鏡なり、われは到底爾の反射たらんとすと。思ふに詩人は、理想の爲に愛を歌ひ、說敎家は罪のために愛を呼ぶ。志想の懸隔、嗚呼それ何ぞ甚しき。人もし罪の爲めにのみ、キリストに行かば、得る處少し。而も彼もし天眞爛熳たる至聖者を學び、其美其德の爲に、譪然キリストを默念せば、其得る處蓋し少からざらん。

（二）村の牧師が、佛國革命史に名高きミレボーを惡しき人と呼び、家のおかみさんが、文學界の泰斗、セクスピヤをすかぬと、うなりだすには閉口なり。我はミレボーの英材を高く假し、セクスピヤの文材を深く慕ふものなるに。

六月十四日

（一）多くの普通學校女生徒にセクスピヤを敎へ、ミルトンを敎へ、ブラウニングを敎へ、テニソンを敎ふ。而して、バイロンを敎へず、シエレーを敎へず、キーツを敎へず。我は思ふに、バイロン、シエレー、キーツを味はずば、到底詩美の眞を知り難しと。而してシエレーを味はずば、到底、理想の粹を知り難しと。セクスピヤ、ミルトン、シエレーは英文學の三泰斗なり。而してシエレーに於て、實に言ひ難く筆し難き、彼が精美の一信仰を見る。

（二）はじめて熟した櫻實で、今日は家のおかみさんが、チエレー、プッヂングと云ふものをこしらへて、晝飯後の御馳走にした。燒きたてのプッヂングに入れられた櫻實はいくらか好味を失つたが、今年のはつもの七十五日の考へで、うまく食事をなしをへた。

（三）今日は雨がふつたり、暑つかつたりして妙にまかも涼しい夏の日だ。雨が降るかと思ふとすぐあがつて、野の枯木のそばに散亂する白薔薇をぬらす露がきら〳〵とひかつて、それを眺めて居つた自分に、淸い美人がふるへて、玉の淚をパチッカせて居るのだと想像させた。

六月十五日

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

（一）十六年間毎日用ゐて居つたといふパン皿を、家のおかみさんが、おとして破つて、彼は今日不機嫌なり。彼は彼が未だ乙女たりし時、母より貰つたといふ白き茶碗を以て、朝にコーヒーを飲み、夕に茶を飲む。其茶碗は、今年で五十八年目

（二）家の中は暑くるしいから、自分は本をかゝへて、林檎園の樹の下に行つた。あたりの裸麥は、風に波打つて、自分のすわつた丈よりもずつと高かつた。其淺瑠璃の波間をすかして橫たへた、モハンク峯をなめがつゝ、自分はこんなよを考へた、天命説なんて、本當なんかしらんと。若もこゝに一人の大詩人があつて、あやまつて理想の低い婦人と婚禮して、其後、其婦人が自分の話相手にならぬ、とても自分の理想、詩考をはなし出しても、其婦人には解せぬ、自分は自分の作つた詩を歌ひ出しても、とても其婦人が、彼の胸間に合琴の波動を奏して呉ぬといふ事を發見したら、彼はつまり不愉快に違ひない。かゝる際に、彼はふと一人の見上げた、氣高い婦人に會つた。共に話して見たら、互に深い理想が自然に聲を發して、互の胸は、一樣に波打ち、互の靈は共に活火を發し、夢かと思ふ間に話も合つて、遂に情味が益々緻密になつて聲を失ひ、靜まりかへる天地の中、言ひ難き、涼しき眼の微笑を以て、覺えず淸淨たる情味をかよはした。全躰婚禮したからといつて、彼の詩人は、所謂、天命説を奉じて、彼の淺ましい女と一生を送らねばならぬといふのかしらん。而して自分の心を知つて、猶自分の考を彌よ高めてくれて、而も自分の愛に劣らぬ愛をもつてかへして呉るといふ婦人を、みす〳〵棄てゝ行かねばならぬといふのかしらん……晝飯の爲、家に歸つて、おかみさんに、あなたは、天命説をお信じになりますかと問ふたら、彼は答へていつた「勿論、勿論」と。

六月十六日

昨夜村の會堂で、外國傳道費を助ける爲に設けた、アイスクリームと菓子との會食會があつて、家のおかみさんが、はりこんで呉れて、自分は其會に行つて、同會長なるおかみさんと共に、十一時頃、月夜に馬車を駈つて家に歸つた。アイスクリームは十錢で、菓子は五錢であつたが、自分がたべた分は、拂はうといつても、今宵はわたしが、あなた

へ御馳走をするのだといつて、とう／＼おかみさんが拂つてしまつた。會で多くの村の夫婦達や、牧師や、師範學校の校長夫婦に逢つたが、談話のうちに、多くの人が、あなたは、日本とアメリカと、どちらが御好きですと問ふた。答へて、勿論我故國の日本がといつた。どんな開化な便利な仙人國のやうな土地があつても、どうして／＼旭日の輝く、粋な日本にかへらるゝものか、日本の爲に働いて、日本の爲に死ぬるといふが、自分の目的、自分の樂しみだものを。

六月十七日

百姓の祈禱ほど、有がたみの籠つて居るものは他にない。妻が料理した芋や、豆や、肉の載せならべたる食卓のぐるりに、箸を取る前、先づ頭を垂れて、澤山に御馳走を下されて有がたう、善心にいつもくらすやう、神の御かげで、此日を安全に過すやうにと、彼はまじめに祈願す。

（つゞく）

いざ行かん雪見にころぶところまで　芭蕉

教　育

臺灣島民子弟の智識

（臺北府國語學校第二附屬校の調査成績）

臺北府國語學校第二附屬學校に於て、生徒、初めて入學するの際に、理科及び修身に關する、數多の質問を發して、彼等が家庭及び鄕人の間に在りて、何程の敎育を受けて、幾許の智識を有せるやを一人宛口頭にて試驗したるに、幼年少年の生徒數十名の、之に對して、思ひ／＼に答案を述べたるもの、實に左に示すが如し。其智識の支那的なるは素より、其語調もまた然り。而して、其修身科の答案中、主權者たる本地人に阿諛媚言するの語多きを見るも、これ亦支那的にて流石に如才はなきなり。此等の諛言を聞いて彼島民の皇化に霑ふと、既に如斯しと速了するものあらば、これは未だ情狀を察知せざるものといふべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎理科試驗問答

◎一　我等呼吸する處の氣は何物なりや

呼吸は天地の氣なり（一人）○人の血氣の疏通するに依る（二人）○人間の身中より出づ（四人）○身を養ふが爲めに起る（一人）○肝臟中の火なり（二人）○血を扶けて周身を衞る（二人）○血體の氣なり（二人）○血腹中の氣を吸ふに起る（一人）○肺の開閉に依る（一人）○心氣の生する所に係る（一人）○心肝の氣極つて起る（二人）○人が氣を呼ふに依りて起る（二人）○心肝腹肺の發氣（一人）○發動（一人）○內外の氣の通ずる爲めに起る（一人）○血力に依て生ず（一人）○胸より起る（一人）

◎二　風は何か

風は天地の氣節に從て起る（一人）○地中吐出の氣（四人）○天間より來たる（一人）○石燕飛で起る（二人）○天地呼吸の氣（三人）○虎嘯て生ず（四人）○天氣生ずる所（三人）○雲霧日に起るに依て生ず（一人）○雨か呼ふ所の氣（一人）○鷲飛で生ず（一人）○山氣吹き起す所（一人）○大門より來る（二人）○風伯の所爲（一人）○空中の氣（二人）○地氣（一人）○寒に依て生ず（一人）

◎三　雨は何か

雨は是れ天の汗（一人）○雲霧海水を含で落つ（四人）○龍の所爲（七人）○海中の水山上に登て落つ（一人）○陰陽二氣凝て成る（一人）○萬物を養ふが爲に降る（一人）○雲霧日色を遮るに因て降る（一人）○雨師の所爲とする者（二人）○黑霧の生ずる所（一人）○天氣（一人）○雲山に遮られて起る（一人）○地下に生ずるとする者（一人）○雲裏の潤氣（一人）○水蒸氣（一人）○天の陰氣（一人）○天河の水化して雨となる（一人）○雨是れ落つるのみ一定の理なし（一人）

◎四　雪は如何なる原因に依て生ずるや

雪は冬日寒冷なるに因て生ず（一三人）○天氣の生ずる所（一人）○寒勢に氣凝に成る（一人）○氣結て成る（一人）○天の運動流行に基く（一人）○冬時久雨晴れさるに因て生ず（一人）○天氣降下して來る（三人）○冬天到て雪生ず（一人）○雪を天氣とする者（一人）○天上より落つ（一人）○山上より來る（一人）○地下所在の玉帝旨を降して生ず（一人）○地氣の生ずる所（一人）○萬物の生育ずる爲に生ず（一人）○四季分るゝ時生ず（一人）

◎五　雲は何か

雲は是山氣（一人）○地中より生ずる所の烟氣（四人）○天地生ずる所の氣（一人）○地の陰氣升る（一人）○濕氣の凝結に依る（一人）○山川の氣（二人）○天氣（三人）○天の所爲（一人）○霧氣（一人）○雨降るとき嶺より起る（二人）○天邊に生ず（二人）○山海の生ずる所（一人）

◎六　雷電は何か

雷電は是れ地下の氣（七人）○落雨あれば必ず雷電あり（一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人）○雷公電母の所爲（一人）陰陽二氣の交撃（一人）○天の怒氣（一人）○雷電雨を驅るの聲（一人）○雷は天より生じ電は地より生じて相撃つ（一人）○玉帝の所爲（二人）○雷は地より起り電は天より生ず（二人）○風雨を推す神の所爲（一人）○地動て雷騰る（一人）○天の所爲（二人）○天の性（一人）○雷電生じて日月高し（二人）○天地の氣疏通ずる能はず盡頭に至りて起る（一人）天使の臣（一人）

◎七　虹は何か

虹は是天地の餘氣（一人）○天氣の生ずる所（六人）○天間より出づ（一人）○天吉凶を降す前徴（一人）○天地の陰氣（二人）○陰陽二氣の交感（一人）○天地の交泰（二人）○天河（一人）○風雨晴るゝに依て生ず（一人）○山邊海外の氣（一人）○盧遠の血（二人）○落雨の生ずる所（一人）○天より來る（二人）○雲より生ず（一人）○颶風至るの徴（一人）

◎八　地震は如何なる原因に依て起るや

地震は陰陽二氣の不和合より生ず（三人）○季候變化の徴（二人）○土牛鼇身の所爲（一二人）○天地の精氣聚て成る（一人）○天地の轉輪不順なるに由る（一人）○陰陽二氣の過不及（二人）○五行の氣（一人）○地氣の虚空なるに依る（二人）○天時の不順なるに由る（一人）○地氣の剛强なるに由る（一人）○重濁の氣凝て起る（一人）

◎九　冬は何故に寒きや

冬の寒きは寒風吹き雪霜多きに由る（一六人）○陽氣虚中に由る（一人）○冬は氣北方に屬するが故に寒し（一人）○元陽上升に由るとする者（一人）○暑氣盡くるに由る（一人）○氣伯起來るに由る（一人）○水多きに由る（一人）○冬天は土に屬するが故に寒し（一人）○陽衰へ陰盛なるに由る（二人）寒風暖氣を奪ふに由る（一人）

◎十　夏は何故に熱きや

夏日の熱きは夏日大にして東北風多きに由る（一人）○日太炎なるに由る（三人）○天氣甚熱きに由る（三人）○夏火氣を起すに由る（二人）○夏は火を主として丙丁に屬するに由る（一人）○元陽墜下に由る（一人）○火氣盛なるに由る（四人）○寒氣盡て熱氣生ず（一人）○夏なるが故に熱し（一人）○日色火の如くなるに由る（四人）○夏天は火に屬するが故に熱し（一人）○陰衰へて陽盛なるが故に熱し（二人）

◎修身科試驗問答（幼年生徒十四歳以下凡三十餘名）

◎一　儞の最も愛する者は何ぞ

讀書を愛す（一一人）○日本語を愛す（四人）祖母の壽期（一人）○金を愛す（一人）○遊びを愛す（二人）○讀書と國語を愛す（一人）○字を識るを愛す（一人）○父母の生日（二人）○演戯を愛す（三人）○商賣を愛す（一人）○山珍海味（二人）

◎二　儞の最も惡む者は何ぞ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

城内に行くを惡む(一人)○苦力の仕事(一人)○喧嘩を惡む(一人)○遊びを惡む(七人)○博賭(五人)○賭博喧嘩、登樓(二人)○錢を惡む(一人)○飯を食はざるを惡む(一人)○人に打たるゝを惡む(一人)○休息を惡む(一人)

◎三　儞の最も哀む者は何ぞ
食せざるを哀む(一人)○教師の言ふ所を解せざるを哀む(一人)○覺えざるを哀む(一人)○人に打たるゝを哀む(一〇人)○祖母に打たるゝを哀む(一人)○父母の病を哀む(一人)○父母喧嘩を哀む(一人)○父母に打たるゝを哀む(四人)○喧嘩を哀む(二人)○母の死を哀む(一人)○父母の死を哀む(二人)○祖母の死を哀む(一人)

◎四　儞の最も樂む者は何ぞ
遊びを樂む(七人)○一緒に學校へ來るを樂む(一人)○子供の誕生(一人)○日本語を學ぶ(二人)○祖母の生日(三人)○父の生日(二人)○多金(一人)○祭事(三人)○父母の生日(一人)○讀書(三人)○母の生日(四人)

◎五　儞の最も尊ぶ者は何ぞ
父母(四人)○祖父(三人)○叔父(四人)○父母兄(一人)○祖母(五人)○祖父母(三人)○父(一人)○伯父(二人)○母(一人)

◎六　儞の最も羨む者は何ぞ
好き讀書人(五人)○善子供(二人)○商賣人と官人(一人)○詩人(三人)○賢人(四人)○善事(二人)○讀書と賢人(一人)○祖父(一人)○兄(一人)

◎七　儞は將來如何なる人とならんとを望むや
大商人(一人)○善人(一人)○日本語に達することと(二人)○平安(一人)○商賣(一三人)○商賣と官人(二人)○多金の人(一人)○卒業(一人)書物に通ずる人(一人)○讀書人(二人)○本國に行くことと(一人)

◎八　儞の最も聞かんと欲するものは何ぞ
講古(七人)○教師の教(一人)○歌(一二人)○讀書の音(一人)○日本語(一人)○聖書の言(一人)○讀書と歌(一人)○善人の話(一人)○琴(一人)

◎九　儞の最も見んと欲する者は何ぞ
演戯(一七人)○一切の物(一人)○日本の寳物(一人)○讀書の樣(一人)○美人と寳物(一人)○好文字(二人)○人の字に寫す術(一人)○講古(一人)

◎脩身科試驗問答(第二)(十五才以上出席五十名)

◎一　汝の最も好むものは何ぞ
各國の國語を學習して專心之を學ぶにあり(二人)

◎二　汝の最も悪むものは何ぞ
外國に出遊する時別人土匪の事を說くを聞くにあり(一人)

◎三　汝の最も哀むものは何ぞ
父母既になく獨り孤獨人となつて汾々流涙哭泣するにあり(一人)

◎四　汝の最も憂ふる者は何ぞ
何日に至り國語に能く全通するを得べきやを思ふにあり(一人)○國語成らず友人に恥笑せらるゝにあり日本語を知らざるにあり(一人)○

◎五　汝の最も樂む者は何ぞ
毎日學校に行きて國語を研究し校中の生徒と結で兄弟とな

り群を同ふして樂むにあり（一人）○本國語を學習するにあり（五人）○日本語集（一人）○官吏となるにあり（三人）○日本の語に通ずるにあり（一人）○兄弟同衾（一人）○樂極つて悲生ず渙氣終に益なし（一人）

◎六　汝の最も尊ぶものは何ぞ

來て國語を學ぶ途中偶ま先生に遇ひ又偶ま日本の好友に遇ひて其禮を爲すを見るにあり（一人）

◎七　汝の最も鄙むものは何ぞ

脅肩諂笑の聲（三人）○人相怨むなり（一人）

◎八　汝の最も羨むものは何ぞ

別人の日本語を知るとなり（一人）○日本語に全能なるにあり（二人）○本國官員民を視ると赤子を視るが如し是れ羨むべし（一人）

◎九　汝の最も望むものは何ぞ

今日窓前の苦學他年馬上錦衣して回るにあり（一人）○日本語を研究して後來高位を得るにあり（三人）○日本語を習ふと（二人）

◎十　汝の最も畏るるものは何ぞ

先生毎日復習を要す其記臆せざるを思ひて之を畏る（一人）○事務を知ずして官廳に至るにあり（一人）○道路の平かならざるにあり（一人）○小頂路を行くと（一人）○職業（一人）

◎十一　汝の最も信ずる所は何か

人皆な耶蘇回々二教を信ず吾は本國の正教を信ず（一人）大主宰眞上帝（一人）○誠實にして虚言なき人（五人）

◎十二　汝の最も聞んと欲する者は何ぞ

日本語話（二人）○本國の奥妙なる法律（一人）○國語談會に出でて先生の教を聞き衆生徒朋友の話を聞くにあり（一人）○外國の景致（一人）

◎十三　汝の最も見んと欲するものは何か

○雨後登樓山の美色を看るにあり（一人）○天下五大洲（一人）○別人の通譯（一人）○本學校の規矩（一人）○人の國語を讀む所（一人）○先生寫す所の字（一人）

◎十四　仁とは如何なる事か

本國人臺灣人と相打つ我れ本國語を以て双方を説き之を和解して事了るにあり（一人）○生物を殺さず（一人）

◎十五　義とは如何なる事か

憲兵大人（一人）○小許の事情に依て相打つ之を見て和解する是れ義（一人）

◎十六　禮とは如何なる事か

往來禮を行ふ禮を知らざれば男子にあらず（一人）○烟茶を出すと（一人）○親戚朋友賓主を分つと（一人）

◎十七　智とは如何なる事ぞ

千万百計是れ智（一人）○人民の相打を見て明かに其罪を辨理すると（一人）○智は巧の術三代以上は智を曰はず智を以て造化の權を奪ひ能く天地の精を漏らす（一人）

◎十八　信とは如何なる事ぞ

人の約を違へず朋友に許したる事必ず之を成就す（一人）○終始一の如く悔厭の心なし（一人）○言語相符す（三人）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎十九　勇とは如何なる事ぞ
義を見て爲す（二人）○天を爭ひ國を奪ふ（一人）○物事に力を竭すと（一人）○力を竭して國家を修む（一人）○死を以て國家を助く（一人）○寛にして衆を得（一人）

◎二十　孝とは何如なる事ぞ
父母の意に順ひて父母の心に逆ふなき也（十二人）○仁を爲す人（一人）○遠く遊ばざると（一人）

◎廿一　忠とは何如なる事ぞ
君に事へて身を致す（十一人）○盡忠報國（五人）○君に事へて二心なく民を愛して子の如くする（二人）

◎廿二　汝は何の爲に本國語を修むる乎
臺灣本國に歸す言語通ぜず故に學ぶ（十三人）○藂民は即ち本國の人民宜く國語を習ふべし（一人）○後來高位の望あるが故（一人）○日本語を愛するが故（一人）

◎廿三　汝の好む所は如何なる學問なるか
學問の道廣し五經に學あり詩禮の學あり技藝の學あり近頃又泰西各國の學あり皆好む（一人）○詩書論賦（三人）○詩書歌賦（二人）○最も語學を好む（一人）○中人以上の學問（二人）○官人に成る學問（一人）

◎廿四　學問に幾種あるか

◎廿五　何故に豚尾髮を剪らざるか
夫身躰は我親遺す所の身たり一を毀傷するあれば便ち不孝なり况んや禿髮は乃ち禪家の妙理豈に丈夫世に處する者にして亦區々是の如くならんや然りと雖ども運會の轉移に聽せ亦風に隨て一變せんのみ然らざれば本來の面目を完する豈難事にあらずや（一人）

此時開化未久しからず後日不用の物に屬すべし（二人）頭髮尾は是れ元來祖宗固有する所なり而して吾之あり誠に是れ祖宗の授くる所に由る也然り既に祖宗の授くる所に由る人の子孫たる者又安ぞ其本を廢して其源を絶つとを得んや倘今之を剪らば必らず祖宗の怒を貽さん祖宗既に怒らば死後祖宗に地下に見るなけん（一人）
昔し曾子曰く身躰髮膚之を父母に受く敢て毀損せずと而を况んや此頭髮尾を剪らんや吾思ふ臺灣既に日本帝國に屬す凡そ臺灣の臣民を擧げて則ち帝國の臣民なり臺灣の子弟は即ち帝國の子弟なり而るを何ぞ此頭髮尾を剪るに在らんや假使ひ此頭髮を將て剪斷するも何ぞ國に益あらんや此頭髮を將て剪斷せざるも亦何ぞ國に損あらんや吾思ふ斷じて頭髮を剪るを以て要となさず（一人）
頭髮尾は從前の遺物なるが故（一人）○臺灣既に本國に屬す頭髮尾の事慢々辦理すべし（一人）

◎廿六　何故に爪を長ずるや
爪髮は血の餘なり旋長旋剪豈に文飾の雅に關せん然ども又一種の廢人あり故意に蓄へて之を長くし謂らく若し偶ま之を失落せば必らず命運好からずと此れ爪を以て盛衰の兆となすに至る甚いかな亦た世風の降るや（一人）○讀書人の風俗（一人）○長爪を留むるは無益の事後日一切除くべし（一人）○未だ本國の法を知らず故に蓄ふ今ま當さに

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

之を剪るべし（一人）〇剪爪は我の好む所也（一人）〇此乃ち父母の生む所敢て剪らざる也（一人）〇閑あるが故に長爪を蓄へて美様となす爲なり（一人）〇手指爪は是れ臺灣斯文の人重物を動かさず故に蓄ふ（一人）

以上悉皆の答案中、經書諳誦の餘に出でたるものの如き、又は尋常々套の語さして珍奇にあざるものは總て畧す。

而して又此學校現在生徒九十九名に就きて、原籍、該島移住以來の年數、幷に職業別を取調べたるもの、左の如し。

〇第二附屬學校生徒九十九名種別表

原籍		移住年限	
泉州	九一	二百年前后	八
福州	三	百五十年前后	九
廣東	二	百年前后	三九
宜蘭	一	八十年前后	一
漳州	一	五十年前后	二七
呂宋	一	三十年前后	三
泉州 晋江縣	五八	二十年前后	一
泉州 惠安縣	九	十年前后	一
泉州 安溪縣	一〇		
泉州 南安縣	一一		
泉州 同安縣	三		

職業			
材木商	二	竹商	一
魚商	二	農	二
宣教師	二	秀才	二
貿易商	二	打銀商	二
呉服商	二	餅賣商	一
煙草商	二	通譯	一
畫工	一	米商	一
收租	九	易士	一
教師	四	紙商	一
士	六	雜職	一
醫師	一	香店	一
藥商	二	雜貨商	十四
無職	一〇	時計商	一
船頭	一〇	鴉片商	二
茶商	一	商家手代	一
酒商	五	官吏	二
蜜柑商	一		

◎教育統計

近刊文部省第二十四年報によるに、明治二十九年十二月三十一日現在、全國官公私立大中小學校の數は左の如し。

	官立	公立	私立	合計
小學校	二	二六、二九四	五三九	二六、八三五
徒弟學校	一	一一	五	一七
實業補習學校	—	九〇	三	九三
盲啞學校	一	一	二	四
尋常師範學校	—	四七	—	四七
高等師範學校	二	—	—	二
尋常中學校	一	九九	二一	一二一
高等女學校	一	一二	六	一九
高等學校	六	—	—	六
帝國大學	一	—	—	一
專門學校	—	三	四一	四四
技藝學校	六	四九	一一	六六
各種學校	—	一五	一、一三四	一、一四九

而して又、明治二十五年以來の官公私立諸種學校の增減數比較を見るに左の如し

	官立	公立	私立	合計
二五年	七、九一三	三、一三二、四一二	一四五、三八〇	三、二八五、七一〇
二六年	八、一九二	三、三〇八、〇〇三	一三九、五〇五	三、四五五、七九〇
二七年	八、四四八	三、四七六、五〇五	一三七、八六三	三、六二二、八一一
二八年	八、八七六	三、六五四、〇〇八	一三九、二九九	三、八〇二、一八三
二九年	九、三二一	三、八七二、七九四	一四八、八五八	四、〇三〇、九七三

官公立學校は遞年其數を增加しつゝあるに、私立學校は、二十五年以後二十七年まで年々減少し、二十八年以後また次第に數を加へて、二十九年度にては、二十五年度現在數に超過せり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治二十九年來の學齡兒童は七、一八七、〇五九人にして、其中四、六一五、八四二人は就學せり。これを明治二十八年度に比較するに、學齡兒童は一〇三、九一一人、就學兒童は二七七、七七三人を增加せり。事實上就學兒童は遞年增加の狀態にて、過去二十四年間に學齡兒童百人に付二八、五より六四、二二に進み、即ち三六、一七を增加したるなり。また小學校各種教師數は七六、〇七一人にして本來需要の數より不足せるもの二七、九三七人の多きなり。次に全國にて學齡兒童中の盲啞兒統計を示せるを見るに、

	男	女	合計
盲兒	二、三三一	一、八八九	四、二二〇
啞兒	二、四五七	一、七八一	四、二三八
合計	四、七八八	三、六七〇	八、四五八

此中就學せるものは、盲者三十五人啞者百三十人あるのみ。盲啞者よりも更に憐むべき白痴兒に至りては、文部省は、何等の統計をも示さず勿論此等の不具兒にして特殊教育を受けつゝものなきなり。白痴教育に關しては、一の大須賀氏ありて、僅に之に着手しつゝあるのみなれども、こは當路の眼中にいらざるもの、たゞ盲啞學校長小西信八氏が、二十九年末に、盲啞教育研究旁、白痴教育取調を命ぜられて文部省より歐米へ派遣せられたるあり。

◎名士教育談

近衞公爵は、學生の濫交を禁ずべしとの說をなして曰く、

學生が修業時代に、廣く他に交際を結び、其結果、時間を消費し、學業を怠り、遊惰に流れ、金錢を濫費し、遂に一身を誤るに至る、この濫交や甚だ之を禁ずべく、特に中學程度の學生にありて禁ずべし。中學生徒の如きは、未だ世故の委曲を知らずして、我念の發動獨り盛に、爲に生意氣となり、指敎に困難なり。彼等は濫りに交友を廣くし、往來追逐、無益の事を談じ、以て世才に老いたりとなし、無用の遊樂に熱中し以て世事に嫻れたりとし、濫りに朋黨を結び、校の規律を亂し、師長の教誨に反抗し、徒らに心力を學事以外に竭くす。かの學校騷動の如きも、其一原因は此弊處より生ずと。頗る時弊を言ひ得たりといふべし。

又加藤弘之氏は普通教育の欠點五項目を擧げて。一には、普通教育擔任者中には往々學問と教育との別を詳にせずして、兎角生徒に不相當にして不必要なる事項を授けんとするの弊多き事、二には漢學先生の編輯せる讀本などに、往々所說有り得べからざる奇怪說を揭載するものありて、生徒の爲に甚だ有害なる事。三には普通教育上の授業は、尋常一様の學才ある生徒を標準とすべきを、授業法綿密或は簡略に過ぎて、生徒の了解に困難を來たすと。四には修身を各級受持の教員に託して授けしむると、五には修身にて教授する事項の、忠信孝悌の非尋常なる事蹟談に過ぐるとなりといへり。

◎學校醫の設置

學校衞生の事、甚だ注意せらるゝに至りたる結果として、文部省は、勅令第二號もて學校醫設置の件を發布し、本年四月より實施することゝなりたり。扨て之につき、如何にして、學校醫の適任者を得んかにつき世間に說あり、其說の歸する處は、特別に學校醫なるものを養成すると、又醫術開業試驗科目中に、學校衞生の科を置くと等なり。

◎新文部大臣

濱尾文相の位にあると六十餘日、莊席未だ溫かならずして、內閣の變動によりて辭職し、西園寺侯之に代る。西園寺侯の教育異見は、其曩に一度文相の位に在りし頃に多く聞ける處、吾人は無乃、此人に多少の望を置くものなれども、教育界にては、これに反對の意向を示すもの多し。此相位未だ定まらざりしや、侯にして出づるよあらば、甚だ好ましからず、教育界の望む所は、近衞公か、谷子か、大隈伯か、渡邊子かもし然らずんば久保田讓氏の出でんことを望むとの議論さへあり、多少之につきて其向々にて運動したりとも聞く。

◎西園寺文相の談

西園寺文相客に語りて曰く

日本はエライ國である優つた國であると信ずる愛國家もあるが我輩は西洋流でなくてはいかぬと思ふ。西洋の學術を習ひ進步に則り、文明を輸入して、日本の國運を增進せしむるもの愛國心である。我輩は最初から西洋流でなければいかぬと信じて居る。

評論

日本基督教會の將來

基督教會近時の萎靡も亦た太甚しき哉。

論者曰く、傳道の行はるる今日の如く盛んなるはなしと。眞に然り、世上一般の人心惣べて萎靡多年の空想大率ね瓦解す。東西南北の人悉な信委する所を要めざるはなし。此の時に當りて傳道の大いに行はるるは勿論なり。

一と度は世界主義の名を聞きて絶憤せし人心も、今は反抗の氣慨もなし。基督教をもて亡國の階段とせし誤迷は知らざる間に消失せたり。今にして誰か其の布教を害ありとせんや。基督教傳道の行はるべきは當然なり。

左らば則はち何をか基督教會の萎靡とは言ふ。他なし、其の教會の萎靡を言ふ。教會堂内蜘蛛の巣を掛け、堂前門下雀羅を張る。宗教の中心既に寺院外に去つて、無名の信徒、有名の信徒よりも多し。一時其の一派の士人が教會の浪人組として輕蔑せし浪人の數甚しく增殖せり。

夫れ國民進步して政府の衰ふるとあり。宗教の進步何んぞ亦必らずしも教會の隆盛を意味せんや。但だ痛ましきは、國民の進步に伴はざる政府の遂に顚覆するが如く、宗教の進步に伴はざる教會の不幸にして衰亡するとこれ耳。

衰亡の一時尙ほ忍ぶべし、長く教會をして空屋ならしめ、何日迄も彼の浪人の散漫を容すべけんや。浪人の流浪も暫時の中は武士根性を失はずしてあれど、遂に素町人に伍してさもしき終りを遂げざるものは少なし。今にして早く教會の組織を一變し、人間本來の宗教心に適當する新制度を執らざれば、空屋は此末倒るるの外なく、浪人は此上墮落の外なく、明治三十年間の新教傳道は、形跡に於ては一時其の結果を消滅すべし。他日新らしき萠芽を生じて更に徐ろに新組織の下に成長する迄には、十數年をや要すらん。而して、基督國たる名の日本を切要する時勢の大變革は蓋し此の間隙に於て飛過すべし。基督教會の人の時勢の需要に後るると常に此の趣きによる。明治六七年既に然り。明治十六七年既に然り。明治二十七八年既に然り。來るべき基督教國たる日本を要するの明

治三十六七年も亦た開口叫恨の際に空しく經過すべき乎。

左らば、基督敎會の組織如何んか改正すべしと言ふ。他なし、理の當然に隨つて無理の要求を爲さず、人間本來の宗敎的渇仰と、多數の人の習慣とに滿足せしむるあるのみ。何んぞ必らず奇策あらんや。

試ろみに思へ、今の敎會は何事を成しつゝある乎。仔細に考慮すれば、其の衰ふるは當然の數にあらずや。每日曜日に說敎する所は、大抵、敎理神學の辯論、もしくは慨世慷歎の不平談のみ。一週一回如此き演說を聞かんとする渇仰心は本來人間の具備するもの乎。もし假りに其の說敎者をして火の如き預言者ならしめば別事とす。而も預言者は古郷に貴とばれず、每回繰り返すべき習慣の下には、眞乎の預言者すらも倘ほ力なきもの也。もし又其の慷慨をして眞實ならしむるも、現に當人の慷慨にして左程に眞實に、左程に切迫のものならしめば、當人身を挺して速かに躍り出づべき筈なるに年々月々一週每に一度づゝ其の慷慨を叫ぶのみにて毫も躍り出づべき摸樣もなしと言へば、則はち左程に切迫せざるとを知るべし。本人未動かず、何んぞ他を動かすに足らんや。

敎理神學の辯論に至ては、其の講學の人の外には用なきと也。信ぜんとを欲する人に解剖論を聽かせ、平らかならんとする人に反對論を講究せしむとも何の功あらんや。此如き說法の敎會に追々人足の遠くならんとは當然の數也。

或ひは又、祈禱會の盛んならざるを歎くものもあれど、其の盛んならざるも亦た當然なり。生平あまり親密ならざる人々集會し、同情交感の未だ熟せざるに際して、衷心內靈の要求を絕叫し、同もに祈りて神助の下らんとを合力哀求する如きとの出來べきや。

而して、今の新敎敎會には、禮拜の氣尤も薄し。崇嚴の風殆んど絕す。其の會堂は演說會塲の如し。特更に繁雜の土地に設置して、特更に八釜しき側に入口を設け、壇上壇下惣べて寄席の姿にて、中にはツンボ座敷の如きを設け、俯下して、正面をのぞき込むの準備もあり。人の端崇正嚴なる宗敎心が渇仰する要求に對しては、些との供給もなき也。斯くして玆に入來せざる人を罵りて薄信なりと言ふ。抑そも信仰心あるものにして、今の敎會の如き殺風景の處に安座するに忍んや。崇嚴の心あるものは寧ろ汚さるるの感懷あるべし。

夫れ今の不足する所以を吟味すれば、之を補足するの途直ちに明白なるべし。

凡そ教會に主として必要なるは禮拜堂なり。信徒集り來るに備ふ第一の供給も亦た崇嚴なる渴仰心の滿足なり。而して、教會に籍を列する信徒なるものは、其の相互の交際は絶無なりとも尙ほ不可なし。たゞ教會に於て其の神を禮拜するの交際は絶無なりとも尙ほ不可なし。たゞ教會に於て其の神を禮拜するの交際を果さしむるを要とすべし。信徒の眼中には、第一に禮拜、第二に牧師あるべし。彼等は此の二つを中心として教會に集來すべし。其の來るや、一週一回にても、月一度にても、もしくは二ヶ月一度にても可なり。其の來ることの多少をもて信仰の薄弱を評する勿れ。たゞ實行の如何んと、家庭に於ける宗教的習慣の如何んとを問ふべし。日曜日又は其他の日に於て、牧師は隨意の講義もしくは說法を爲すべし。其聽問は、信徒の隨意となすべし。其の來否をもて信徒の義務を判つこと勿れ。抑そも宗教的生命の開發助長は、信徒銘々の機根に相應せざる可からず豈に畫一律定して信仰箇條的に限制すべきものならんや。左れは則はち其の事業は牧師の大事業にしてあらゆる手段を執らざる可らずと雖ども、必竟は個人銘々的の關係にして之を一概に言ふ可らず。所云ゆる牧師本人の伎倆と德操とに關し、普通の規則をもて論ずべきものに非ず。

今の教會には信徒相互の交際を重んずと稱し、兄弟姉妹の名を以て其の規律を限る。これ固と理想にして容易に實行し得べきものならんや。都にても鄙にても兄弟姉妹の如くに交はりがたき身分懸隔の人多くあり。而も教會員と言へば直ちに此の如くなり果てざる可らずと言ふ。人情に通ぜざるも亦た甚しからずや。然るに現に何處にても兄弟姉妹の如くなりつつある信徒は見當ることなし。本來行ふに難き理想を懸けて新に入會せんとする人を驚ろかす。之れ豈に傳道の慈悲ならんや。

今の傳道者數ば言ふ。最初の教會は嚴密ならざる可らず、今にして信仰箇條を明白にせざれば、后の教會を如何せんと。之れ議論として聞くに都合よく、實際に於て何の價値もなき空論なり。左らば、其人の教會に入りたる會員を仔細に吟味せよ。所謂ゆる其の信仰箇條なるものの明白なる輩儕幾何あ

りや。其の大數はたゞ暗誦するのみ。其他は只だ信ずるのみ。殘れる數人の議論に巧みなるものは、銘々隨意の立論を搆へ、其人相應の神學を設けつゝある也。牧師先生此の實相を覗て尙ほ主張ありや。

夫れ、佛教寺院の組織を見て之を佛教の特有物となす如きは、近眼の太甚しきもの也。印度の佛教と支那の佛教と日本の佛教と、其の寺院の制度組織を異にするは何故ぞ。これ日本佛教寺院の宗教的組織は、即はち日本人の宗教的慣習に相應せる結果たるの故に非ずや。去らば、之を目して佛教の制度と言ふと勿れ、寧ろ日本人の宗教的組織なりと言へ。基督教家たるもの、之を利用せずして可ならんや。

明治政府の人、一概に德川氏の制度を破却して之れ幕府の制度なりと言へり。豈圖らんや、幕府の制度は即はち織田、武田、北條氏の制度にして、實に日本人民政治的の習慣に則とりたる者ならんとは。基督教家たる者、寺院の制度を惡みて坊守の袈裟の如くする勿れ。超然たる脫俗の士、當に卓として包羅活用し、明治政府失敗の跡を襲ぐと勿れ。

抑そも基督教に存する特種の思想を輸入し、基督教にのみある特別の宗教的神學を鼓吹する如きとは、當に之を有數の信徒の頭腦情心の中に於てすべし。所謂ゆる改革的宗教心の萠芽は、かゝる稀有なる人士が身裏の寺院に於て養成すべき者也。もし夫れ會堂と云ひ寺院と云ふ者に至ては、一般衆生の宗教的器關にして、其の本來の宗教的渴仰を滿足せしむる俗的組織に過ぎず。之をして廣く且つ壯ならしむ可と同もに、之に嚴密深奧の制限を要す可らず。之れ何等の組織にも必要なる當然の心得にして、苟も新らしき事物を輸入せんとする士人の皆な承知すべき筈也。則はち皆承知すべきとにして、而も承知せず。窮屈なる注文を唱へ乍ら、其信徒の多からんを欲し、身、預言者を理想し乍ら、野に於て味はず、思想の先覺者を慕ひ乍ら組織上の盛大を要むる如き、滔々として是れ也。嗚呼、新日本、之よりして基督教に存する特種の思想を迅速に輸入すると尤とも切要なる乎、抑も亦た西洋の基督教徒と唱へらるるほどの淺薄なる信徒にても、速かに之を增加せしむると切要なる乎。吾人は双ながら之を切要とするに先後なし。只之を施こすに於て手段の二種あるとを辨ず。今の教會の事を言ふものの如き、果して其の辨別を識る乎。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隨　感

○臺灣土人紳士の品行

臺灣臺北にて去年の冬、招魂大祭のありし時、官民の名士悉皆發起人となり、中に就きて才俊其の委員に撰ばれ、趣構を議す。一の案に云く、臺北城內の藝妓を總揚にして餘興を添しめんと。宗教家某あり、熱烈之に反對し、二た度び否决せられて、三たび復活し、遂に酌取の名をもつて、臺北の七美人以下悉皆混入す。時に、該委員、土人撰出の委員に交涉して曰く、吾等は日本の藝妓を悉く招かんとす、卿等も亦た臺灣の藝者を呼べと。土人委員の曰く、

之を聞く臺灣にも亦た藝妓ありと。然れども、臺灣の紳士は之を近づくるを恥とし、隨つて其の何處にあるやを知らず。如何して能く之を招かんや、と。

新竹縣新竹城外に客舍竹陽軒あり。土人の豪族林氏が邸の一部分を借用せり。余之に宿するの日、主婦審らかに土人紳士の品行を叙して曰く、嘗て縣官二三氏來遊して藝妓を招き、絃歌の聲を起す。后ち一月、妾が主人の外より歸れる時、家主林氏、通譯者を携へて來り談ずらく、

吾が邸を割きて貴家客舍の用に供する所以のものは、日本遠來の客を勞すべき適宜の宿泊新竹城內に乏しきの故なり。余は不肖と雖ども、官公の用に供へんが爲に諸種の割愛を爲せり。紅毛田停車塲の地所の如き、亦た吾が私有を捧げて無料の官用に供する也。然るに貴家屢に客をして藝妓を招かしめ、此家を汚がす。余の忍びがたき所にして、亦た素志の期せざる所、況んや當初の約に違へり。但だ主君不在の故に直ちに辨言せず、今ま初めて之を要する耳と。

條理井然、意想公明なり。竹陽軒主人、大いに謝し、深く後日の爲に契へりと云ふ。

○長州馬關の明暗

長州馬關に奇異なる慣例あり。其の娼妓は昔し平家の官女の身を落せし姿に緣めりとて、妓店對帆樓の娼妓は今に至るまで、安德天皇御廟祭の折の第一の拜禮者たり。官女の成れの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

果てを記念するさへあるに、今は官幣大社となれる國家の大御社に、何ものゝ匹ひとも知れぬ忌はしき女の、いかゞしき裝束して其の正祭の日に第一の參拜を爲すこそ心得ね。

この所の妓樓の主婦、茶店の仲居等は、春畝相公などを友達の如くに思ひ、年始狀をさへ呈すると聞く。之も亦た奇しむ可らず。所々の妓樓に春畝山人書と署せし額面のかゝれるもの多しとぞ。

長府に孤兒院あり。米國婦人シヤーランドの遺產を基本として成立すと聞ゆ。シヤーランド孃は、維新前長州馬關を砲擊せし米國軍艦の士官某が契約者なり。士官此の戰に死せり。故をもつてシヤーランド孃日本に渡來し、遂に長府女學校に敎へ、日に一回必らず壇の浦邊に逍遙して、昔しの跡を忍べりとぞ。此の老孃今は逝きて則はち孤兒院あり。

馬關の錦波樓は、旅人を宿す通常の客舍なり。然し乍ら主人富松氏嚴然として、矯風に任じ、其の舍を神聖にして苟しくも汚さゞらしむ。各室必らず聖書一卷を置き、楣間大抵金言の額をかけ、苟且にも酒杯の用に應せず、藝妓は一歩をだも其の敷居を跨がしめず。客人一と度び泊し、或ひは出でて醉ひ、踉跟として女を携へて歸れば、たとひ夜半と雖ども、主人出でて之に接し、其の忌はしきものは門外に斥けて入れず。醉客憤怒して、直ちに宿をかふるものもありけり。然し乍ら主人毫も憂へず、多年嚴然として一日の如く、信用固く熱して、舍內常に淸風あり。淫猥の氣充滿せる馬關港內の一異觀なりとす。

○故鄕のそら

幼なき時、生ひ立ちし故鄕に來て見れば、かしこの山、こゝの水、釣したる淵、遊び舞ひし野原など、總べて詩歌の如し。松並樹の影むかしの如く、川原の石子何となく緣りあり。道路の迂曲、橋々の形など、おぼろげ乍ら記臆せり。家居の杉も亦た同じとて慕はしく窺へば、但だ住める人の面かげのみは新らしし。なつかしきは、故鄕なり。小さきも亦た故鄕なり。幼時の理想の大きげにして今は小さき、眼前の風景の記臆のたゞ壯大なりけるを笑ふに相似たり。

嗚呼靈子何んぞ悲しき。吾外より歸りて君が逝けるを聞く。

雜　録

裸躰畫を論ず

鷗村

美名を以て、醜行を遂ぐるものあるは、古今社會の通弊にして、羊頭を懸けて、狗肉を賣るの諺は、既に久しく、盗跖また仁義を名とせり。今や世上、慈善或は愛國の美名を以て、其實私利に汲々たるもの尠からず。また彼の名を美術に藉りて、醜陋を敢てすると、現時流行する裸躰畫の如きありて、一は以て社會の清徳を害し、また以て美術の神聖を傷ふ。然るに、世人はたゞ美術の僞名に聴して、之を排擊するもの尠く、而して、猾商をして、卑劣男子の弱點に乘じて、奇利を博するの好策を獲せしむ。夫れ今の裸躰畫といへば即ち婦人に限れるが如きものは、之を社會清徳の爲には勿論、また美術上、禁壓を加ふべく、而も、吾人の如きは、天下の婦女を侮辱するものとして、之を排擊せざるを得ず。

往年國民之友が、美妙齋の小説蝴蝶の裸躰畫を掲げしや、忽ち凡俗の好奇心を惹起して、爲に裸躰婦人の石版畫、繪草紙屋の店頭に堆きを致せしかば、政府遂に令を下して、之を禁止せり。其後暫く裸躰畫の公にせらるゝものなかりしに、頃しも第四博覽會の京都に開設せらるゝに際し、これより先き、佛國より歸朝したる畫家黒田某は、其審査官の一人として、而して、曩に己の畫ける處にして、佛國の一博覽會に出品したりといふ、浴後裸躰の婦人畫を、强ひて此會に陳列せしめしや、一時の世論またやゝ囂しかりしが、政府は、なほ他に裸躰畫を公にするを禁止したり。されば彼畫家の流、及び一派の美術批評家は、之を以て政府が美術を觀るの見識の乏しきに歸して非難するものありき。然るに、昨年來此禁やうやく弛びて、書肆等外國より輸入したる、赤裸々たる美人畫寫眞をば、何の差別もなく、往々にして醜陋卑拙なるものをも、公然印行して、店頭奇利を頒つに至る。而して此頃之が可否を論ずるものまた尠からず。然れども其論たる、多くは要緊を得ず、且や、彼名を美術に藉れる輩の迷妄を聞き、また、世の謬を正すの說なし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

而して先づ、之を賛成し、而も尊崇するもの、説を聞くに曰く、此畫態や、これ人身の曲線美を完全に描出すべくして、とは美中の至美なり、而も畫家、之を學ばすんは、遂に人躰畫の妙處に臻り難しと。此説は、これ、美術家、美術の區域を知らず、畫室に在るものは、即ち皆美術なりとする所以にして、畫室内に限るべきの道理を藉りて、俗眼を悦ひんとするものに過ぎず。其名の美しくして、其實の醜きを致すも、また之に由る。而もこの論の世を欺くと深きものあり、これ平素吾人の痛撃せんと欲せし處にして、近日フェチロサ氏の裸躰畫濫用を論ずるを聞くに、頗る吾人の志を得て、また益を獲ると多し。フェチロサ氏は、日本美術の誘導助長に功積尠からざるの人、さる人の説なれは、自ら重きを置くべしと、而して其論案は以て今日の裸躰畫論を一定するに足るものあり。故に吾人は先づ、氏が論の要を紹介して、而して後多少の自説を加ふるの可なるを見る。

フェチロサ氏、裸躰畫及其彫刻の歴史を略説して曰く、美術上裸躰畫、別して裸躰彫刻の起因は、古代希臘の美術に在り。美術は其時代と其社會とを説明するものなれは、

蓋し是れある所以は、即ち、古代希臘の氣候と其人民の習俗とに關係せるものなり。其國氣候の温暖なるよりして、人民は寛衣輕裳を着くるとを好みて、殊に其戸外遊戯の際の如きは通常裸躰なりき。此角力鬪戯は、頗る人民に重んぜられて、之に勝利を獲たるものは、絶大の名譽を負ひ、また其勝利者の逞ましき躰姿容貌は、彼處此處に彫像に造り立てられて桂冠を戴かされたり。然れどもなほ、希臘盛時の彫像を閲するに、多くは全衣若しくは半衣を着けて、其赤裸々なるは、極めて稀れなり。殊に裸躰婦人の畫像に至りては、ヴィナス女神の像を除くの外、殆ど之を見ず、而も有名なるミロの作なるヴィナスは、なほ、胸下寛衣を纏へり。

然るに紀元前二三世紀の頃に至りて、希臘國民と其美術との墮落を來たせしや、爰に初めて裸躰畫濫用の時代は來りたり。奢侈背徳となりし人民は、幾千のヴィナス像を造り、また此時よりして、婦人の浴時または浴後の裸躰畫なるもの出で、世の嗜好に投じたり。

この墮落腐敗せる希臘美術は、羅馬の美術を誘導するもの

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

となり、而して羅馬の墮落時代は、更に一層の腐敗を美術上に齎し來りたり。其帝王は、希臘の裸體像畫を攜へ歸りて、淫行にて滿てる宮殿を飾り、美術家は、之を摸造し、醜また猥、其遺留せるものは、今日以太利一博物館に閉藏せられて、婦人小兒の展覽を許さず。

然るに紀元第四世紀に至りて、基督教會の勢力の、希臘羅馬の社會に於ける腐敗の氣を一掃せしや、裸體畫像は、地を拂ふて其跡を美術界より絕ちたり。以後十三世紀の間、健全なる北方獨乙人種の威を全歐洲に張るに當りては、裸體畫なるものなし。

されど十五世紀に於て、古代文學及び古代美術の、先づ以太利に復興せしや、美術に於ては、羅馬宮殿大厦の廢趾を發堀して、古代の希臘羅馬の繪畫彫刻を、斷片零餘に尋ね、而して尋ね出したるものは、多くは、墮落時代の遺物たるヴィナス及び女子の裸體畫像なりき。然るに當時の伊太利人は、未だ希臘美術の眞贋を分つの識なく、發堀し得たるもの、皆これ尊しと迷信したり。されど猶其時の畫家と雖も、裸體畫を描きしもの極めて稀なりき。然るに十六世紀に及んで、以太利人が、多神と肉情との奴隷となり了り、基督教會も亦娼婦の巣窟となりし時、害毒ある古典傳說の誤る處となりて、裸體畫像は續出せり。この傳說の謬は、近くは佛國に及んで、更に裸體畫をして、盛んならしむるに至れり、而して今世紀の初め、寫實說は、歐洲美術上の一勢力となり、爲めに裸體畫の爲に良口實を與へ、赤裸々たる人體を描寫することに勉めずんば、美術家の恥づべき處となし、其說甲唱乙和、廣く行はれて、古型（クラシカル）の好名の下に、北方寒國の黃髮女子が、赤條々の醜體を以て、花間に徜徉するが如き畫像を描くに至りぬ。其弊の最も甚しきは、佛國にして、彼國の博覽會もしくは展覽會に至れば、畫像の大部分は裸體なり、而も多くは男子に非ずして、女子の裸體なり。而も此等の畫像は、寫眞となりて、街頭到る處に之を販賣せらる。其畫たるや、多くはモデルを描寫したるに止まりて、何等の理想もなく、醜陋これ極まれるもの多し。如斯きは詮ずるに、裸體婦人を見るを喜びとするの肉情に起因するものに外ならずして、この醜汚なる美術の社會に及ぼす影響如何は、滔々た

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る巴黎美術學生の悪徳醜行は、明に之を證明せり。

氏また、裸躰畫は美術家の研究すべきものなれども、これ即ち美術其者には非ず、裸躰畫は近世歐洲の思想、感情及び習俗、氣候に違反す、既に此違反ありて、即ち美術の要髓を失ふ、これをしも美術といふべけんやと論じ、また裸躰畫の美術に入るべき區域は、美術家が高尚純潔なる精神を以て、材料を古史代若しくは神傳説時代の裸躰ならざるべからざるものに採りて之に理想を寓するものに止まるを説けり。

フェヂロサ氏の所説は要するに、今日の婦人裸躰畫は、道徳墮落の餘弊に出つるものにして、また美術の名を假りて、其實美術の方便を以て目的と誤りしものなり。これ畫室に於て研究すべきものにして、公衆に示すべきものに非ずとするに在り。夫れ人民の思想、感情及び習俗、氣候の實際を離れて、美術なるものある能はず。而して、歐州婦人の如きは人に裸躰を認めらるゝを以て、甚大の恥辱となし、舊教徒婦人の如きは、獨り入浴を試みるの際とても、襯衣を脱するとなしと聞く。また裸躰を見るとに寛大なる、我國と雖も、婦人の裸躰は、其の耻づる處にして、また人の見て醜となす處なり。然るに實際に於ては醜なるも、之を畫布に描き出さば、即ち美となるといふに至りては、非理も亦甚しといふべし。蓋し今の之を描くものは、朦朧たる畫面と、古型美術の名と、流行の思想とによりて、實物の醜の幾分を蔽ふに過ぎざるのみ。又女子裸躰を耻ぢざる樣姿をなせる多くの畫像は、即ち美徳を失へる女子の狀のみ。寫すべきものに於て、既に精神の美を滅せるものを、其畫像畢竟何等の美致を發揮すべけんや。而も今の畫家のなす處、理想なくして、たゞインキと刷毛とありて、婦人の耻づべき裸躰を商品となして糊口とする一種の醜業婦を摸するにあるのみ。醜また醜、此醜を描いて美と化するの奇術、古來未だ曾て之あるを聞かず。人の認めて醜となせるものを描いて、見よ美中の至美、爰に在りと、趙高、馬を以て鹿となすが如きの謡言をなさんも、焉んぞ、人の眞心を欺くとを得んや。

畫家好んで婦人の裸躰畫を描くは、卑劣なる凡俗の弱點に投ぜんとするに非らざれば、則ち其好奇心に基くものに外ならず。若し然らずんば、同じく、畫室裡にて研究せられつゝある男子の裸躰畫は、何が故に公衆展覽の場に陳列せられざる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

や。眞の古型美術には、男子の裸躰畫像を題材となしたるものありと聞くなるに、今其古への術に藉ると稱する裸躰畫の美術に入るべきは、何が故に妙齡美貌の少女に限れりや。蓋し是れ美名の下に醜陋を敢てし、好奇心を漫にするものたるべきのみ。而も其裸躰婦人畫は、之に衣を着せしめんには、却て其欠點を補ひ、美趣を呈せしめ得べきもの、比々皆然らざるはなし。會々高尙なる理想を寓するものありとするも、假令これに着衣せしめんに敢て其理想に增減する處なきをも、なほ强ひて、裸躰ならしむるは、好奇心に出づるものとせざるを得ず。彼佛國歸りの畫家が、我國に之を輸入するが如きは、其志や、或は彼國美術の極致處を以て、幼稚なる我國美術界を一驚せしめて、之を誘導せんとするにあらん。されど其實、彼等は佛國美術の皮相の弊處に心醉して、裸躰畫我佛と尊拜し、之に阿附するの徒、また其迷妄を唱和するのみ。彼等が美術學校にモデルを輸入したるは、素より然るべしと雖も、其拙劣なる裸躰畫を以て美術の粹と誣ふるに至りては、是れ放蕩浮華なる佛國の卑陋なる繪畫を以て、我邦の美術の前途を誤らんとするものなり。由來、彼等は、畫室の反古紙にも、金緣を附して、公衆に示すもの、而も亦娼婦にして己の姿たる女子を描いて、美術會に出品するもの、未だ以て、共に美術の高尙神聖なる所以を語るべきものに非ざるなり。

米國は自由の國なりと雖も、展覽會の裸躰畫は黑布を以て蔽はれ、其寫眞は、之ありと雖も公然販賣することを得ず、紳士は之を購ふを耻づ。またボッケチヲのデカメロンの如きは、酒屋に於て竊に之を賣るのみと聞く。然るにこのデカメロンの我邦に輸入さるゝや、小說家の金科玉條となりて、公然之が飜譯をなすものあり。彼の耻ぢて蔽ふ處、我は之を公にして耻ぢず。放蕩なる佛國の文學及び美術の弊害の、得々として我に入り來るも、また當然にして、堂々たる紳士にして娼婦の裸躰踊りを觀ることを喜ぶの國民は、由來裸躰婦人畫を歡迎するの素養あり。醜猥なる此類の書の印行せらるゝもの、頗る多きも、また宜なりといふべし。

然るに或論者の如きは、裸躰畫を見て醜念を起すは、其者の思想の賤劣なるが故なりとなすものあり。此說素より然りと雖も、これは是れ客觀上の議論にして、これを以て、直に裸

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

躰畫の是を辯護せんとするは、論理を誤るの甚しきものなり。また或は、日本は裸躰國なり、裸躰畫何ぞ不可ならんやと論ずるが如きものあらんか、日本の婦人は、決して赤裸々として白晝公行するものに非らざるを如何せん。

されど吾人は、悉く裸躰畫を排撃せんとするものに非ず、眞に古型なるものは、素より之を重んず。而して日本にて、裸躰畫を描かんとせば、相撲取、小兒の如きは、常に人目に觸れて、異とせざる所、而も好畫題に入るべく、夏天田野に營々たる農夫の裸躰畫もまた可なり。されど裸躰畫といへば即ち所謂裸躰美人畫を意味して其名既に忌むべきものに至りては、社會の風俗、習慣を破り、人民の思想感情を蔑し、而も同胞姉妹の最も耻辱とせる容姿を、公衆に暴露して、婦人の清徳を侮辱するものなりとして、鼓を鳴して之を攻めずんばあらず。吁、美名の下に醜行あり、彼美術の名を藉りて、此醜陋を敢てするものあり。今の裸躰婦人畫なるものは、社會上美術上、共に之を容るゝと能はざるものなり。

レデイ、ゴダイヴァ

(Lady Godiva.)

西洋美術家の好んで用うる題目に、レデイ、ゴダイヴァ、裸躰馬に跨るの容姿あり。傳へいふ、紀元十一世紀の頃とかよ、希臘國メルシアの伯爵レオフリフの妻にゴダイヴァとなん呼ばれたる一賢夫人ありき。其夫は、領地コヴエントリーの民に課するに、苛税を以てし、其膏血を絞りて、飽かざるの事をなす。此時ゴダイヴァは、生民塗炭の疾苦を觀るに忍びず、屢々伯爵の前に伏して、民の負擔を輕うせんことを乞へり。然るに伯爵は何思ひけん、或時、汝もし赤裸々として腰に一布を纏ふとなく、かくて馬に跨りて、市街を一週せんには、其請を許さんといふ。裸躰は、女の人前に最も耻づる處、ゴダイヴァも爰に至りては、夫の非慈非情を怨ぜざるに非らざれども、己一人の耻辱を忍んで、以て一領の民の生命を救はんと決し、夫の命ずるまゝを行ひぬ。然るに人民は此事を聞くや、此厚恩の淑女をして。耻を負はしむるとを敢てせず、街頭戸々、悉く其門戸を塞いで、外を窺ふものなし。然

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るに一人の裁縫師にて、トムといへる卑劣漢あり、小さき節穴より偸視したるに、其両眼乍ち盲したりとぞ。ゴダイヴア既に命を行ひ、伯爵は約を履んで、苛税を除き、人民飢餓の難を遁れて、此賢婦の恩徳を感謝せりといふ。

此傳説の事實素より疑ふべし。されど、これ、婦人裸躰の耻づべきことゝ、又他人之を觀んことを欲す可ものに非ざることを敎ふるの好比喩なり。ゴダイヴアの徳行烈志は實に世々に傳へて、人の龜鑑となすべく、其名を文に鐫り、其徳を歌に詠ずべしと雖も、之を像に刻み、之を畵に寫して、其形を傳ふるに至りては、これまたトムの劣情に襲ぐの譏なき能はず。假令これ美術の好題目なりとするも、若しゴダイヴアの徳を思ふの時は、コンヴントリユーの市民と共に、此賢女の志の爲めに、其耻態を蔽ふて、之を後世に傳ふるの無情を敢てすべけんや。

夫れ今の畵家、漫に裸躰婦人を描くを好むものは、猶ほ、メルシア伯のごとく、また之を觀んことを喜ぶものは、なほ「偸窺」のトムのごとし。されどコンヴエントリーの市民となりて、彼美術の名を僞りて婦女の淸徳を侮辱し、彼等をして、耻を負はしむることは甚だしき裸躰畵を排するものは鮮し。

譚海（一）

◎秘書官の時計

或朝、ワシントンの秘書官、出廷の時刻に後れて、大統領之を待つこと久しうして至る。秘書官は、己の時計の狂ひを生じたるを口實として、其過ちを免れんとせしに、ワシントンは、靜に之に答へて曰く、「君は他の時計を購ふべし、然らざれば、予は他の秘書官を任命せざるを得ず」と。

◎公主の金剛石

瑞典王の妹ユーゼン公主、或時、其所持し給ひし數顆の金剛石を鬻いで、一病院建設の費用に充て給ひたり。病院既に成るを告げて後、一日公主は患者訪問の爲に、之に啓行し給ひしに、患者の一人は、公主の慰問の忝けなさに、ハラ〳〵と淚を溢せしかば、公主其淚を認めて、思ひ返し給ふとあり

けん、忽ち聲高く「ア、妾は今爰に再び、曩の金剛石を見るよ。」と叫び給ひしとぞ。

◎王頭と賊頭との價値

波蘭最後の王スタニスラスの時、國内に叛亂起り、王族の一人、實に之が巨魁なりき。其巨魁、王に書を贈りて、王の頭に賭するに二万フロリンの金を以てしたる旨を述べしに、王直に之に答へて曰く、「朕は汝の書に接す。汝が朕の頭に賭するに莫大の價を以てしたるを喜ぶ。されど朕は汝の頭の爲に一厘錢をも賭する能はず、」と。

◎チルソンと一水夫

コッペンヘーゲン海戰の後、チルソンは直にヤーマウスの海軍病院を訪問したる際、一水兵の、右手を肩の附根あたりより失ひて呻吟臥床せるものあり。チルソン之に問ふて、「貴樣はどうした」「閣下、私は右の手を失ひました」之を聞きて、チルソンは、其片腕の跡空しき、袖を見下しつゝ流石哀を忍びつゝも、亦笑ひながら「それぢや貴樣も予も、これではもう漁師には駄目だが、それでも、良水兵にはなれるから、氣をしつかりしろ。」といひしとぞ。

◎王が初めての金儲

以太利王ヴィクトル、エムマヌエルは常に狩獵を嗜んで、或日、單身、銃を執りて野外に出でしに、會々一人の農夫に逢ひたり。農夫は王を、必定獵夫なりと思ひて、自家の鷄を盜みたる狐を除かんことを求めたるに、王は翌日を期して之を諾したり。其約束通り、王は翌朝また彼處に臻りて、多少の苦勞の果に、其狐を殺したり。農夫は甚だ之を喜んで、其家に招きて朝飯を供し、且つ謝儀として、二フランクの金を贈りたり。王はいたく喜んで此金を受けて生涯に初めての金儲けなりといひつゝ、之を衣兜に藏めて歸れり。かくて一二日を過ぐるの後、一官吏、馬車を驅りて其農夫の家に來り、其家族の爲めに、夥多の贈物を遺りて、曩昔の獵夫は、即ち國王なるの實を告げたりといふ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時文

◎菊と桐　春の屋主人作　春陽堂版

菊とは「二葉の楠」をいひ、桐とは「沓手鳥孤城落月」を指す。二つながら、春のや氏の脚本にして、またいづれも曾て新小説の附錄として江湖に出でたるもの、今一冊の美本に纏められて、二度の舞臺ともにぎはし。

◎新知事　漣山人作　同

春陽文庫の一なり。志士が、志を得て知事となるといふ話、筆といひ、想といひ、極めて稚し。これ蓋し山人が、本の口繪に見たる年躍頃の舊作か。

◎おもひざめ　宙外作　東華堂版

宙外、近來、多作す。中にも此度新著月刊號外となりて出でし、この小説は、中々の大作なり。ショッペンハウエルの厭世哲學を奉ずる一靑年が、家の養父は父の仇、其妻は、これ仇の片割、たま／＼苦勞人の黒人女と意氣投じて、終に情死のキタストロフに了るといふ筋のものなり。

◎女界文壇雜俎　（本號〆切迄）

◎天然に於ける女子の地位（下山次郎）　女子之友第十五號
◎古代文學に於ける婦人の地位（高楠順次郎）　帝國文學第四卷第一
◎支那の女子（寧齋主人）　花の園生第八年第二號
◎教育上男女の別（西谿）　家庭雜誌第百十二號
◎昔がたり（武家の家庭）下田歌子　太陽第四卷第二號

此梅に牛も初音となきつべし　ばせを

片々

◎西園寺文相客に語りて曰く、女子教育も奬勵せねばならぬ。女子教育は餘程後れて居るからと。

◎福澤雪池翁　曰く、私の氣に喰はぬ事は、男子が高く止つて居て、其主人がお內儀さんを呼棄にする習がある。夫婦間の手紙往復の有樣も大變に違ふ、丸で君位のやうに書いて居るのを、折節見る、可笑くつて堪らない、之を外國人に見せたら、どうだらう云々と。由來男女同等は、翁の常に唱ふる所、夫、妻を呼ぶに、さん付にし、妻への手紙には樣と書くべしとは、翁の持說なり。

◎日本に於ける基督教會の社會事業の統計左の如し。

	總數	生徒數
男子學校	五九	三一四三
女學校	六四	五〇四一
看病婦學校	一二	二六三
幼稚園	二〇	六三六
貧民學校	六〇	三〇三二
孤兒院	一九	七一九
諸種の會館	一四	二八七
病院及施藥所	一六	

◎丹波丹後　の兩丹教育會にて何某といへる小學教師は、薩摩琵琶を小學教科に加ふるの可否といへる議題を發題して討論に附せしに、生憎、薩摩琵琶なるものを知る者少くして、あたら妙議題も、無効となりぬとぞ。

◎國家主義　を奉じて、時事に感ありとて、高等看護法研究會なるものを設置せるものあり。看護婦もまた國家主義なるを要すと見えたり。

◎各國の禮法　亞刺比亞人は唯一回の握手にては、好意を示すに不充分なりとして、七回も八回も握手するを例とす、而して若し主客双方が高等の地位を有する人ならんには、互に抱き合ふて幾たびとなく他に接吻するのみならず、自己の手にまで接吻す。土耳其にては我胸に手を當てゝ慇懃に身を曲むるを普通の挨拶法と爲す。緬甸にては男子は我鼻と口とを女子の頬邊に近づかしめて、宛かも馥郁たる香芳を吸ひこむが如く、深く氣息を引入るゝのみにして、決して歐人の如く接吻することなし女子の男子に於ける亦此の如し。獨逸聯邦の多くにては、女子の手に接吻するを以て、男子の普通禮法と爲せども女子の歡心を買はんことに熱心する通人粹士は、之を爲さず。接吻禮を親戚の間にのみ限るは、伊太利の習俗にして、額に接吻するは露西亞の禮法なり。

◎華族女學校　生徒間に流行派、小說派及び觀劇の三派ありと。姫御達の嗜好の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

異なる處に隨つて、與黨をなすものとぞ。

◎印刷局の　女工女學生の風を眞似て頗る似たり。其打連れて往來する處、近きあたりの高等女學校生徒と見違へらるゝばかりなりとぞ。

◎郵便貯金利子の引上　郵便貯金利子の非常に低廉なるより、豫れて其引上の噂さありたるが、愈明年度よりは一分三厘以內に於て引上ることに內定し。遠からず之に關する勅令出づべしといふ。さすれば現在の四分二厘を引上げて五分五厘迄となすものならんと云ふ。

◎原胤昭氏出獄者保護事業の成績　客年一月より同十二月に至る、原胤昭氏の出獄者保護事業の報告によれば、被保護者二百九十六人、內在京營業自活し居るもの百十六人、死亡者六人、歸國後所在不明者十七人、寄宿中逃亡せしもの四人、寄宿中無斷家出せしもの一人、犯罪者八人、又外に在京散宿被保護者九十四人といふ。

◎横濱居留地の清國婦人歸桂仙（十七）は下婢毆打負傷の件により、同地方裁判所に拘引せられたり、支那婦人の我法權の下に拘引されしは、之を以て嚆矢となすとぞ。

◎紅葉山人　理想の女子は、「多情多恨」のお種の不人相ならぬ位のものなりといふ。また曰く、女は溫かな家庭の教育を受けたもので高尙なる學問の教育ばなくてよろし假名なしで新聞の讀める位のでよし、かやうな女は米の飯のやうなものであきが來ぬ。金縁の眼鏡をかけて被布などを着るやつは、家庭を修める事は出來ない。また自分の理想を女房に吹き込むとの出來ないものは、丸での意氣地なしなりといへり。この紅葉山人が其門弟共に談じたる、戀愛論婦人論長生論などを案ずるに、山人未だ女性を知るに於て深からざる處あるを見て、其小說の爲めに惜むし

◎米國教育界

●米國ミチソタ州　ミチアポリス市教育局は、財政欠乏の結果、本年三月以後、數多の公立小學校を閉校するに決したり。またヴアヂニア州リッチモンド市教育局は財政不足の爲昨年十二月十二日より本年一月五日、凡ての公立小學校に休校を命じたりといふ。

●米國教育大會　は本年七月華盛頓府に於て開會せらるゝよし

●七歲の法律家　米國カンサス州アチソンの判官ギルバートの子息バイロン、ギルバートは本年甫めて七歲なりと雖も、よく法律に通じ此程法官採用試驗を受けたるに、一般の試驗候補者同等の科目にて、見事に及第して、免狀を得たるが、其免狀は二十一歲に達したる時より有効なるものとなるよし。

◎キューバ島の慘狀●昨年一月一日より十月一日に至るまで、キューバ島の兵刄飢餓に斃れしもの六十万人を以て算し、戰爭開始以後全島住民三分の一を失ひたり、近時また猛烈なる疫病流行して、爲めに死者算なきの狀なりといふ。

時報

◎故英照皇太后陛下御一週年祭　故英照皇太后陛下御登遐ましましてより、早く一年を過して、爰に本月十一日、京都泉涌寺月輪御陵、幷に靑山御所御靈殿にて御一週年祭を行はせられたり。また此日を以て御大葬期明けとなりたるを以て、宮中にては、大祓の式を行はせられたり。

◎女子高等師範學校規則の改正　女子高等師範學校にては今般文部省令に基きて規則を改正し本年四月入學すべき生徒より之を施行することゝなれり。今其の改正の要點を聞くに、學科を分ちて文科理科の二とし、文科の科目を倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、地理、家事體操とし、外に隨意科として習字、圖畫、音樂あり。理科の科目は倫理、教育學、國語、外國語、地學、數學、物理、化學博物、家事、圖畫、體操とし、隨意科は習字、音樂ありて、兩科何れも修學年限は是迄通り四ケ年なれども、各科目とも、從來よりは一層精深なる程度にて教授することゝなれり。生徒は年齡十七年以上二十二年未滿にして夫を有せず、師範學校女子部或は修業年限六ケ年の官公立高等女學校卒業生及び之と同等の學力を有するものに就きて、地方長官適當のものを撰擧し、更に試驗の上撰拔入學せしむるものなるが、他に一般より募集せらるゝ方法もあり。其入學試驗の科目は國語漢文、數學、理科、歷史の五科目に就きて學力を考査し、又た體格及履歷を撿定することと言ふまでもなし。さて又同校卒業生に同等の學力を有し師範學校女子部及高等女學校の教員たらんとするの目的を以て教育學及教授法等を專修せんとする者の爲には新に研究科を設け目下已に家事專修科及び保姆練習科の設置並に撰科の規定などもありて、追々諸般の擴張改良を圖ると云ふ。

◎京都府高等女學校の擴張　明治三十年十二月二十一日に於ける京都府會決議の結果(尋常師範學校の擴張、尋常中學校の增設、高等女學校の移轉新築等を云ふ、同府尋常師範學校及女子部並に附屬小學、附屬幼稚園を他に移し其の跡に高等女學校を新築し、工費約拾萬圓を投じて三十二、三の兩年度に於て工事を落成せしむることゝなれり。今其擴張新築工事設計の概略なるものを聞くに、一本校坪數二階造七百廿五坪五合、平家造四百十二坪二合五勺、二寄宿舍二階造三百六十四坪、三同附屬建物平家造二百八十坪、合計二階造千八十九坪五合平家造六百九十二坪二合五勺、教室の員數は通常教室十五、特別教室十七合計三十二教室なり。而して一の本校は之を今の尋常師範學校敷地に新築し二の寄宿舍幷に三の附屬建物は今の女子部敷地に新築し、荒神橋通りの街路の下に隧道を通じ、以て一の本校と二の寄宿舍との通路とする計畫なり。之を現在のものに比するに敷地建物とも殆むど二倍に上るべしといふ。新築落成後に於ける生徒定員は約八百名、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

學級數は本科十三、補習科二、裁縫專修科三、合計十八學級にして、年々本科生百二十名裁縫專修科生四十五名合計百六十五名の卒業生を出すべき豫考なり。而して生徒入學の途は一年級及四年級にして、甲は尋常小學卒業生を入らしめ、乙は高等小學卒業生を入らしむる所とす。而して甲生は本校に於て六ヶ年の教育を受けしめ、乙生は三ヶ年の養成を受けしむるものにて、甲生を以て本校生徒の本體となすといふ。

◎信州松本高等女學校の設置　信州は一躰に教育の盛大なる地なるが、其松本町の如きは、一校に三千有餘の兒童を教育し居れりといふ。其松本にて、此度いよいよ高等女學校の設置を見るに至りたり。其の組織の大要は修業年限は四ヶ年にして、高等小學二學年卒業のものを入學せしめ、而して差向き校舍は松本尋常高等小學校女子部を以て之に充て、校長には同校長寄藤好實氏をして之を兼ねしめ高等師範學校卒業生一名を聘し、他は同小學校訓導數名をして、教授の任に當らしめ、來年度即ち四月一日より愈々開校することに決したり。而して町會に於て經費の決議次第校舍の建築に着手する筈なりと。

◎米澤高等女學校　同校設立の事は、既に米澤市會にて可決せられ、經常費豫算額千七百圓の歲入出の外、設備費金四百七十五圓四拾錢貳厘を要する由にて、目的とする所女子に須要なる高等普通教育を施すにありて、其教科目修身、國語、地理、數學、理科、家事、裁縫、習字、圖畫、音樂、躰操等を隨意科として漢文教育を設け、外に補習科を置き、年齡滿十二歲以上にして高等小學校、第二學年の科程を卒りたる者、及之れと同等の學力を有するものを入學せしむるなりと。

◎大阪高等女學校　同校は近頃生徒の入學を望む者年々增加せるより、今回規則を改正し、是迄本科生徒の定員五百名を六百三十名、技藝專修科生徒の定員二百名を百二十名、都合七百五十名とし、又授業料は是迄本科一箇月金五十錢、技藝專修科同三十錢、補習科同五十錢なりしを、各十錢引上ぐることゝなり。今回開ける市會へ發案し可決したるに付四月一日より實行する筈。

◎女子高等師範學校撰科生募集　女子高等師範學校に於ては、本年四月文學兩學科生の入學を許す由。出願期日三月十五日迄にして、志願者は尋常師範學校女子部卒業生及び、同等の學力を有する身体健全品行方正年齡十七年以上二十五年以下のものなりと。

◎和洋裁縫女學院　題名の如き一女學校は、東京麴町區飯田町三丁目二十二番地に新設せられ、來二月一日より開校するよし。同校の目的は、和洋服裁縫術及家政學等を教授し、且つ家庭主義により、父兄に代り、其行爲を監督し、其德操を涵養し、溫良貞淑なる母姿を起し、また兼ねて、高等女學校、小學校等の裁縫科教員及家事科教員を養成するに在りといふ。

◎群馬縣會廢娼派の勝利　明治廿八年十一月廿八日群馬縣會は、不幸にも廢娼派議員の缺席に乘じ、公娼設置の必要ありと認め、公娼設置の決議を爲したり。爾來公娼派は種々人心を腐敗なさしめしが、今十四日(三十年十二月)非公娼派議員より、廿八年公娼派の決議したる建議取消の決議を提出したるに、愉快にも大多數にて可決したり。　(前橋石島良三郎氏通信)

◎女子電話交換手募集　女子の職業中其性質に適當せるものは電話交換手なり、殊に勤務方も整備しある室內に於て單に手先の仕事を爲すものなれば、諸事小綺麗にして仕事も比較的六かしき事なく、時々休息時間も與ふる事とて其志願者も少なからざるが、東京電話交換局にては近頃事業擴張の爲め、猶幾多の交換手を要する由にて、目下募集中なるが、一月中旬まで申出の分は願書を受理せりといふ。

◎篤志看護婦人會　赤十字社三重支部篤志看護婦人會は本月廿日縣會議事堂に於て開會せり。

◎篤志看護婦人總會　本月十九日赤十字社札幌支部樓上に於て、篤志看護婦人春期總會を開き、幹事以下會員數十名來會者あり役員の撰擧を行ひたりといふ。

◎泉南婦人協會の發會式　泉州岸和田の名望家吉岡某、特志家等の發起に依て、岸和田南町蛸地藏境內天性寺に設置したる、同會は、本月五日同地に於て發會式を擧げたり。參會者百四十餘名。同會の目的は、宗教の異同を問はず、職業の如何を問はず、有志の婦女汎く交際懇親を結び、兼て智性品性を進むるを主旨とし毎月一回第二日曜日に小集會を開き、春秋三期に總集會を開き、會員相互に、家政、教育、衞生等の研究をなし、時々大家の談話及び高尚なる歌曲音樂等を聽くことゝなせり。

◎伊豫郡中婦人會　伊豫國伊豫郡々中町及び其附近の有志婦人申合せ今度婦人會を起し、過日郡中尋常高等小學校に初會を開けり、同町醫師喜多某氏を聘し、衞生上に關る講話を乞ひしに氏は小兒病の實布的里亞病治療法を講話せし由。

◎婦人協會紀念會　久留米の婦人協會にては一月十六日高等女學校に於て、第十年紀念會を開き盛會なりしよし。

◎女子寄宿舍　元櫻井女學校の創立者たりし櫻井ちか子氏は、此度東京本鄉向ヶ岡彌生町三番地の自宅に、女子寄宿舍を起し、基督教主義によりて、女生の監督をなすといふ。經費は入塾費二圓、一ヶ月食料、室料、雜費とも六圓內外なりとぞ。

◎高等小學校女子交友會　高知縣土佐郡第一高等小學校にては、女子校友會なるものを新設したり。

◎孝子受賞　岡山縣久米北條郡大倭村大字神代岡本七郎(二十五)なるもの、半身不隨の老母に侍して、奉養至らざるなきを以て、同縣知事之を賞するに金五圓を以てす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎順孫　群馬縣北甘樂郡曾倉村土屋佐次郎の孫力吉は、資性樸直九歳母に離れ、十一歳父を喪ふ祖父佐次郎疎放家政を經理する能はざるを以て、忽ち糊口に窮せんとす。乃ち崎嶇を踰え、薪炭を運搬し、烈日寒風曾て解らず、又一妹一弟を慰撫し、耕耘を勤へ蠶業を勵むと茲に八年一日の如く刻苦精勵能く祖父をして餘生を樂むを得せしめたる、段洵に奇特なりとの故を以て今回同縣知事より金若干を下賜せられたり。

◎節婦受賞　山梨縣西山梨郡清山村藤澄ハツは姑及び夫の疾病に侍して、看護懈らず、其死後、遺兒を就學せしめて、且つ農事に精勵なるの廉を以て、同縣知事より賞金下賜せられたり。

◎稀世の孝女　山口縣佐波郡佐波村字佐波合村に保村房藏といふものあり、家貧しければ日々車を曳きて渡世となし、夫婦の間に三女あり長女をミ子といふ、今年僅に五歳にして、尋常の小兒ならんには、未だ乳離れもせぬ頃なるに、父親が一日僅に三十錢宛の稼にて、一家五人の口を糊し居るを心配して吩咐もせぬに風雨寒暖の別なく、日々小さき籠を提げて、少し宛の薪を拾ひ、父の歸るを待ちて之を焚き、群間の疲を慰め、暇あれは母親の手傳をなし、未曾て親の命に背きたるとなければ、遠近之れを傳聞きて其孝心を感じ、十錢乃至四五十錢位宛の金錢若くは物品を贈りて、之れを賞するもの多く、去る七日も其妹フジ（四歳）が腦膜炎にて死去したるを悲む樣のいぢらしさて、同村の呉服商竹中幸三郎氏は其葬送の費用を悉皆負擔して、其善行を賞したりといふ、

◎孝養　岩手縣江刺郡玉里村佐藤辰之助は、齡八十を超えたる養父の病を養ふて、孝養至らざるなし、全村擧りて之を賛稱す。

◎孝子　淺草區元鳥越町三番地根岸助三郎次男晉吉（十五）は一家貧困の中に、自ら勞して些少の金を得て父兄の病氣を看護しつゝあるを、隣人に聞え、差配人は三ヶ月の家賃を免し、且つ米鹽油劑等をも惠與したりとなん。

◎夫婦の孝貞　栃木縣栃木町字嘉右衛門の中條市太郎（卅二）は家道貧困なるが中にも父に仕へて至孝、其妻トヨ（二十二）また夫舅に仕へて孝貞、同郷、之を賞せざるはなし。

◎孝子　三州西加茂郡擧母町都築周造長男助三郎は、日々近傍の農家に雇はれて些少の賃錢を得、夜は繩を綯ひ、以て親子五人の口を糊し、且つ暇あれば、讀書算術に勵むといふ。

◎孝貞婦　羽後國由利郡東瀧澤村渡邊七藏妻カチヨは孝貞の廉を以て、秋田縣知事より木杯一箇を賞賜せらる。

◎可憐兒　仙臺の貧兒伊藤健助、齡僅めて十三、毎曉新聞配達をなして學資を得九歳の弟を勵まして共に學校に通學し、夜は盲目なる病父を看護す。

◎老嫗献芹の誠　佐賀市八戸町水町秀一郎の實母（六十七）は生來頗る强健、此

稷皇太子殿下御成年式の事を聞及び、自ら養ひたる蚕糸を以て一匹の織物を織りて、殿下に献上せんとて、齋戒沐浴之に從事すといふ。

◎長壽　福岡縣三豬郡大川町志岐某の祖母エツ本年九十三歳極めて壯健曾孫五十四人玄孫三人あり。

◎婦人功勞受賞　福島縣安達郡新殿字西の祖名塚敬の妻窩山外六名は近傍の婦女に裁縫を教授し何も百人以上の生徒を有し、功勞少からずとて、村役塲は表彰狀に金員を授與せり。

◎少女の美行　群馬縣碓氷郡後閑第二尋常小學校第四學年生徒中島ヨシエ（十二歳）は、入學以來一日の缺席なく、實妹其他の學友に對して慈心深く、祖父及び父に事へて至孝なるより、群馬縣廳は、高等女子文かきぶり一册を以て之に賞與す。

◎女の賭博　岐阜縣羽島郡竹が鼻にて、婦人の間雜賭博流行し、上流の婦女またこの流毒にかゝり、遂に猥褻の所行を極むとぞ。

●海外女報

◎米國コロナル大學にて、ラフリン孃といへる法科の一女生徒討論會に於て勝利の名譽を得たるが、女生にしてこの名譽を獲たるは、同大學にて此度が始めてなり。

◎米國の郵便事業と女子　獨逸政府にては、先般米國郵便事業に女子を使用することにつきての成績を米國政府に問合せたるに、同國郵務次官の之に答へたる報告によれば、目下米國にては、七万乃至八万の女子を之に使用して、其成績男子を使用すると異なることなし。而して女子の郵務官は二百七十弗乃至千八百弗の俸給を受けつゝありと。又この報告の終尾に、獨乙政府に向つて、郵便事務に女子を使用するの利を説きて勸告したりといふ。

◎佛國銀行の女子事務者　佛國銀行頭取は、贋造紙幣檢査事務を擧げて、婦人に一任したり。其頭取の旨によるに女子の觸覺の緻密なるとは贋造紙幣を鑑定する容易なりと。

◎米國大統領母堂逝去　米國大統領の母堂ナンシー、アリソン、マッキンレー夫人は、昨年十二月十二日八十八の高齢を以て長逝せり。

◎一女史二万弗の寄附　米國ボストン府のアリス、ゴールド孃は、昨年十一月開會の米國科學會院總會に於て天文學及び数學研究補助の爲同會に二万弗を寄附したり。

◎エール大學最初の日本女學生　京都同志社の出身なる山口縣一同ヨシ子の兄妹エール大學に遊ぶ、同大學の日本女生を得たると、ヨシ子を以て始めとなす。

◎李鴻章と女醫　李鴻章は、米國紐育の一支那女醫フー、キン、エン（原字不明）を以て、自家の醫師となしたり。此女醫は曾く福州の一宣教醫師と共に、斯業を行ひつゝありしものにて、其上幼少の時より基督教徒たるものといふ。且又本年倫敦に於て開かるべき女醫大會には、同女は支那を代表して出席する筈なりといふ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

吾社が昨三十年九月十日發兌第四百四十九號紙上を以て婦人社會學研究の爲二十項の問題を擧げて、各地女風俗の調査報告を大方諸君に望む處ありしが、其後幾多の報告に接せしも、婦人問題や事頗る宏大、此等は未だ万分一をだに盡くすものに非ず。由て更に再び爰に調査項目を列擧して、投寄の報告、これより益々多からん事を希望す。

女學雜誌記者識

各地女風俗調査項目

一　男女交際の有樣
（未婚の子女の交際に關する世間の制裁は嚴なるか寛なる乎。男尊女卑か否や等）

二　家庭に於ける女兒の狀態
（家風庭訓の及ぼす教育上の特色ありや。女兒の遊戲、玩具、手傳等に於て目立つものありや等）

三　主婦の義務、勢力、財産等に於ける特別の狀態

四　下女の風習、其雇人の方法規約、彼等が風儀、及び下女に對する家族の態度

五　女子嗜好の傾向
（茶、花、琴、歌、又は義太夫、芝居、小說、常盤津、淸元、三味、踊、賭博弄花等、其他の遊戲

六　婦女子勞働の狀態
（勞働の時間。一日の平均賃錢。幼女の勞働者ありや、一般婦女子の勞働增加せるや。工女の風儀。婦女の從事する職業の種類。婦女の勞働過度なるとなき乎。男子の勞働に比較して輕重如何。婦女が職業を撰擇する自由の有無。婦女勞働者は生計を支へ得るの賃錢を得る乎等其他）

七　婦人慈善事業の有無、組織、景況、及び勢力

八、婦人會の有無、組織、景況、及び勢力
（女同士の談話交際遊戲、又は觀音講の類を含む）

九　婦女子の教育に關する一般世間の意向、女學校の景況、學齡女兒就學の割合等

十　女學生の風紀、修學者の增減、其志望の傾向等
（女學生の主婦たる家庭、其歸鄕後の實蹟等を含む）

十一　婚姻、離婚の方法、及び再婚に對する世間の思惑
（早婚の弊なき乎、夫婦年齡の懸隔甚しき者なき乎、初婚大凡の年齡、婚姻の儀式簡略ならざる乎等）

十二　女子の風俗
（年齡に準する頭髮の結び風、帶の結び方、涅齒眉剃は何程まで衰へし乎。茶屋女、私生兒、密賣者の增加、婦人の飲酒喫烟。ことに交通、教育、興業等によりて影響されし近年女風の變化等）

十三　殊に目立ちたる女の服裝、はき物、手廻道具等

十四　宗教上に於る婦女子の信仰、事業、勢力
（女子の特に歸依信仰する神佛の名稱、願かけ、願文、お禮參り、及び寺院祭禮等に於ける女子の風等を含む）

十五　尼、巫女、妾等となる婦人
（土地の婦女多き乎他所のもの多きか、貧窮の爲か風習の爲か、又は醜業者より轉ずるもの多きか等）

十六　女子の言葉に關する特別の氣付き

十七　女先生、女先蹤、又は有力者にして、其地方の婦女子を感化するもの並に其姓名小傳

十八　婦女子に關する有名の古跡、古碑、並に其小史

十九　婦女子他國への出稼の有無、增減、行先（何地方に多く行くやの事）及歸宅後の狀態

二十　密賣者及び藝娼妓の稱呼並に此等に對する憎惡の輕重
（醜業に對する勸誘の嫌ひあらざる乎、醜業者に對する特別の賤の有無等を含む）

◎寄答者への注意

一　紙上に記載を要せらるる仁は別に本名及び住所を添られたし

一　寄答の原稿を女學雜誌女學欄に掲載したる時は、寄答者に該號の雜誌三部を進呈す

一　報告寄送は凡て左の名宛たるべし

東京麴町區下六番町六番地

櫻井鷗村

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日逓信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY